

東京電力送電鉄塔建設事業 に伴う発掘調査報告書

1980

八千代市遺跡調査会
船橋市遺跡調査会

序

近年、急激に開発が進む八千代市において、その変貌は著しいものがあります。山林は切り開かれ、台地は削平され赤土を露出し、谷は埋められ、清水は涸れ、地形は日増しに様相を変え、忽然と住宅群が出現している現在です。この開発によって人々の生活水準を高め、社会の要求を実現させて行く為に欠く事ができないと同様に、こうした目の前の要求を満たすだけでなく、祖先から長い年月に渡って守り伝えられてきた掛け替えのない民族遺産（文化財）を不注意な行為により失う事のないように、開発事業者と事前協議制度を確立し、文化財の破壊を未然に防止するよう努力してまいりました。

今回の「島田遺跡・神久保間見穴遺跡・平戸口遺跡・平戸西の上遺跡・佐山寺の下遺跡・島田台鶴作台遺跡」については、東京電力株式会社千葉支店習志野工務所が行う電力供給に伴う特別高圧架空送電路の建て替えに伴うものです。電力を地域に供給するという公共性を配慮し、最善の方法を求めて再三協議を重ねた結果、記録保存の処置を講ずる事になりました。

調査は渋谷貢氏に調査の担当を依頼して、昭和53年秋に実施し、多くの成果を上げる事ができました。

おわりに、この調査にあたり、深い御理解と御協力をいただいた東京電力株式会社千葉支店、習志野工務所、並びに調査にあたった渋谷氏をはじめ調査員各位に対し、厚く感謝申し上げます。

昭和55年5月1日

八千代市遺跡調査会
会長 村田和彦

凡 例

1. 本書は、東京電力習志野工務所送電鉄塔建設に伴う既設木柱線・鉄塔立替工事に先掛けて、昭和53年11月6日より昭和54年1月13日までの約2ヶ月半に亘って、八千代市・船橋市・印西町・印旛村の鉄塔敷地9ヶ所の埋蔵文化財発掘調査を実施した際の報告書である。
2. 埋蔵文化財発掘調査は、東京電力習志野工務所が東京文化史学会渋谷貢に現地の発掘調査を依頼し、千葉県教育庁文化課並びに八千代市・船橋市両教育委員会の文化財指導により、八千代市遺跡調査会（昭和53年11月6日より同年12月15日）・船橋市遺跡調査会（昭和53年12月16日より昭和54年1月13日）を組織して実施したものである。
3. 本書の執筆は、渋谷貢が担当し、編集も行った。
4. 本書作成にあたっては、実測・図面トレースを渋谷貢・青山博・宮内勝巳が担当し、写真編集は渋谷貢が行ない、出土遺物の復元及び整理作業には岩井恵美子・子安祥子が従事した。
5. 住居址、溝、カマド、貯蔵穴、ピットなどの各断面図に記入する土層説明は、下記の形で分類し、番号を使用している。
 1. 表土層
 2. 褐色土層
 3. 暗褐色土層
 4. 赤褐色土層
 5. 茶褐色土層
 6. 黄褐色土層
 7. 黒色土層
 8. ロームブロック層
 9. 混ローム層
 10. ローム粒
 11. 焼土
 13. 砂
 14. 灰
 15. 木炭
 16. 土器包含
 17. 攪乱土A微量含まれる。B少量含まれる。C多量含まれる。
主な土層>含まれる土。含まれる土が複数の場合は（土層+土層）を加えている。
7. 出土遺物の番号は各遺構ごとにNo.1～順番に付けており、挿図、図版、出土遺物要覧も同一分類で統一しました。
8. 出土土器には、器面に“黒塗り”または“赤塗り”が施されているものがある。この土器に対しては、土器実測図にSCREEN-TONEを使用し、網点が大きく濃いトーンは“黒塗り”の状態を表わし、網点小さく薄いトーンは“赤塗

り“の状態を表して区別している。

9. 埋蔵文化財発掘調査に際しては、千葉県教育庁文化課主査白石竹雄、同主事鈴木道之助両氏のご指導と、八千代市・船橋市教育委員会並びに東京電力習志野工務所所長池田英男氏をはじめとして、八千代高校教諭村田一男氏の協力を得ることができましたことに対して、深く感謝の意を表す次第であります。また、現地発掘調査では、東電工業株式会社並びに有限会社大堀電気造園からも発掘調査を円滑に進める為に御協力を受けることができました。ここに深く感謝の意を表すと共に、厚くお礼を申し上げます。

八千代市遺跡調査会名簿

会 長	市川浩一	八千代市教育委員会教育長	昭和54年3月まで
	村田和彦	八千代市教育委員会教育次長	昭和54年4月より
委 員	鈴木道之助	千葉県教育庁文化課主事	
	清水盛人	八千代市教育委員会社会教育課長	
	村田一男	八千代高校教諭	
	穴倉康三	東京電力習志野工務所送電課長	
事務局	木原善和	八千代市教育委員会	
	畔蒜清孝	東京電力習志野工務所送電課主任	
調査指導	渋谷興平	東京文化史学会代表	
調査主任	渋谷 貢	東京文化史学会	
調査員	青山 博	東京文化史学会	
	宮内勝巳	東京文化史学会	
調査協力	東京電力株式会社千葉支店習志野工務所		
	所長 池田英男	副所長 伊東清博	
	送電課 課長 穴倉康三	工事係長 鈴木祐滋	
	主任 畔蒜清孝	古川徳雄	
	東電工業株式会社		

有限会社大堀電気造園

大堀義雄 川名三郎

石橋新作 小倉義孝 秋葉和雄

船橋市遺跡調査会名簿

会 長	伊東秀三	船橋市教育委員会教育長
副会長	武藤邦正	印西町教育委員会教育長
	密島和一	印旛村教育委員会教育長
委 員	鈴木道之助	千葉県教育庁文化課主事
	遠藤栄治	印西町教育委員会社会教育課長
	荒居得介	
	大木 勲	
事務局	金刺伸吾	船橋市教育委員会
	穴倉康三	東京電力習志野工務所送電課長
調査指導	渋谷興平	東京文化史学会代表
調査主任	青山 博	東京文化史学会
調査員	渋谷 貢	東京文化史学会
	宮内勝巳	東京文化史学会
調査協力		

東京電力株式会社千葉支店習志野工務所

所長 池田英男 副所長 伊東清博

送電課 課長 穴倉康三 工事係長 鈴木祐滋

主任 畔蒜清孝 古川徳雄

東電工業株式会社

有限会社大堀電気造園

大堀義雄 川名三郎

石橋新作 小倉義孝 秋葉和雄

目 次

序	1
凡 例	3
八千代市遺跡調査会名簿	4
船橋市遺跡調査会名簿	5
はじめに	11
I 遺跡の位置と環境	12
II 八千代市・船橋市遺跡調査会日誌	16
III 発掘された竪穴遺構と出土遺物	24
島田遺跡第1号住居址	24
第2号溝状遺構	26
出土遺物要覧	27
神久保間見穴遺跡第1号住居址	27
第2号溝状遺構	30
出土遺物要覧	30
佐山寺の下遺跡第1号住居址	32
第2号住居址	34
出土遺物要覧	35
戸神遺跡第1号住居址	36
第2号住居址	39
第3号住居址	40
出土遺物要覧	41
鎌苅遺跡第1号住居址	42
出土遺物要覧	46
島田台鶴作台遺跡表採土器	48
IV 結 語	48

挿 図 目 次

第 1 図	千葉県略図	12
第 2 図	遺跡概観図	13
第 3 図	島田遺跡全測図	19
第 4 図	神久保間見穴遺跡全測図	20
第 5 図	佐山寺の下遺跡全測図	21
第 6 図	戸神遺跡全測図	22
第 7 図	鎌苅遺跡全測図	23
第 8 図	島田遺跡第 1 号住居址平面実測図	24
第 9 図	島田遺跡第 1 号住居址カマド実測図	25
第 10 図	島田遺跡第 1 号住居址出土の土器実測図	25
第 11 図	島田遺跡第 2 号溝状遺構平面実測図	26
第 12 図	神久保間見穴遺跡第 1 号住居址平面実測図	28
第 13 図	神久保間見穴遺跡第 1 号住居址出土の土器実測図	29
第 14 図	神久保間見穴遺跡第 2 号溝状遺構平面実測図	30
第 15 図	佐山寺の下遺跡第 1 号住居址出土の土器実測図	32
第 16 図	佐山寺の下遺跡第 1 号・第 2 号住居址平面実測図	33
第 17 図	佐山寺の下遺跡第 1 号住居址カマド実測図	34
第 18 図	佐山寺の下遺跡第 2 号住居址出土の土器実測図	34
第 19 図	戸神遺跡第 1 号住居址平面実測図	37
第 20 図	戸神遺跡第 1 号・第 3 号住居址出土の土器実測図	38
第 21 図	戸神遺跡第 2 号住居址平面実測図	39
第 22 図	戸神遺跡第 3 号住居址平面実測図	41
第 23 図	鎌苅遺跡第 1 号住居址平面実測図	43
第 24 図	鎌苅遺跡第 1 号住居址出土の土器実測図	44
第 25 図	鎌苅遺跡第 1 号住居址出土の土器実測図	45
第 26 図	島田台鶴作台遺跡表採土器実測図	47

図 版 目 次

第一図	1 島田遺跡第1号住居址	53
	2 カマド	
	3 No.1・2 土師器坏	
	4 第2号溝状遺構	
第二図	5 神久保間見穴遺跡第1号住居址	54
	6 No.1・2 土師器坏	
	7 No.3 土師器坏	
	8 No.4 土師器坏	
	9 No.5・7 土師器坏	
第三図	10 No.8 土師器坏	55
	11 No.9 土師器坏	
	12 No.10 土師器坏	
	13 No.11 土師器坏	
	14 No.13 土師器坏	
	15 No.14 土師器坏	
	16 No.15 土師器甕	
	17 No.16 土師器甕	
第四図	18 神久保間見穴遺跡第2号溝状遺構	56
	19 佐山寺の下遺跡第1号住居址	
第五図	20 佐山寺の下遺跡第1号・第2号住居址	57
	21 第1号住居址No.1 土師器坏	
	22 第1号住居址No.2・3 土師器坏	
	23 第2号住居址出土土器一括	
第六図	24 戸神遺跡第1号住居址	58
	25 戸神遺跡第2号住居址	
	26 戸神遺跡第3号住居址	
	27 第3号住居址No.1 土師器埴・No.2 土師器甕	

第七 図	28	鎌苅遺跡第1号住居址	59
	29	出土遺物一括	
	30	No.2 甕	
	31	No.3 鉢	
	32	No.9 鉢・No.14 石皿	
第八 図	33	島田遺跡第1号住居址・神久保間見穴遺跡第1号住居址 出土遺物	60
第九 図	34	神久保間見穴遺跡第1号住居址出土遺物	61
第十 図	35	神久保間見穴遺跡第1号住居址・佐山寺の下遺跡第1号 住居址・第2号住居址出土遺物	62
第十一 図	36	佐山寺の下遺跡第1号住居址・第2号住居址・戸神遺跡 第1号住居址・第3号住居址出土遺物	63
第十二 図	37	戸神遺跡第3号住居址・鎌苅遺跡第1号住居址出土遺物	64
第十三 図	38	鎌苅遺跡第1号住居址出土遺物	65
第十四 図	39	鎌苅遺跡第1号住居址・島田台鶴作台遺跡表採土器	66

はじめに

近年、千葉県では電力需要の増大に伴い、発電所・変電所の建設から既設木柱線・鉄塔の立替工事などが緊急に行なわれているのが現状であります。ここ東京電力習志野工務所管内でも同様の状態で、古い供給体制から新規の供給体制へと交換するために諸立替工事が進められています。

このたび、埋蔵文化財発掘調査を実施した4市町村（船橋市・八千代市・印西町・印旛村）は、習志野工務所管内に入り、既設の木柱線から新鉄塔線に立替えることになり、その際、九ヶ所に土器散布地が確認され、埋蔵文化財が破壊される危険性が十分にあるので、文化財保護の立場から、東京電力側の協力を得て、発掘調査を実施することになりました。

埋蔵文化財発掘調査は、千葉県教育庁文化課・八千代市教育委員会の指導により、八千代市遺跡調査会が組織され、昭和53年11月6日より12月15日までの期間に亘って、八千代市内の遺跡（島田台鶴作台遺跡・島田遺跡・神久保間見穴遺跡・平戸台遺跡・平戸西の上遺跡・佐山寺の下遺跡）6ヶ所に対して発掘調査を実施しました。また、同様に昭和53年12月16日より翌昭和54年1月13日の期間に亘って、船橋市遺跡調査会を組織し、3市町村内（船橋市・印西町・印旛村）の文化財発掘調査（船橋市鈴身遺跡・印西町戸神遺跡・印旛村鎌苅遺跡）を実施しました。

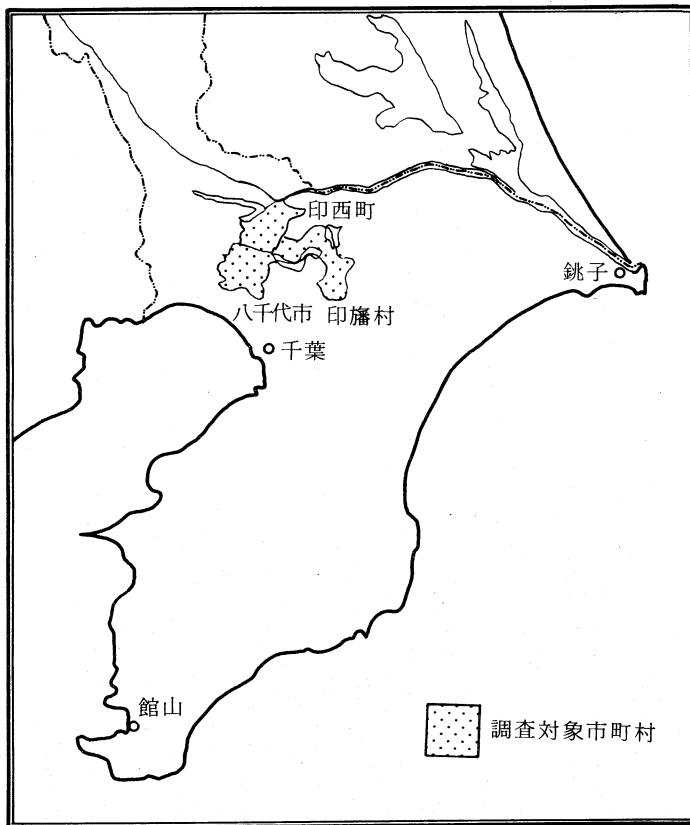
調査の結果、八千代市（島田遺跡・神久保間見穴遺跡・佐山寺の下遺跡）、印西町（戸神遺跡）、印旛村（鎌苅遺跡）の5遺跡から8基の竪穴住居址、2基の溝状遺構が検出されました。住居址の営まれた時期は、縄文時代後期1基、古墳時代3基、平安時代3基、不明1基であった。住居址からの出土遺物は、縄文式土器（深鉢型、浅鉢型、甕型、石皿）土師器（坏、高坏、埴、甕、石製紡錘車）が出土し、土師器坏からは墨書で書かれているものが出土しました。

発掘調査は既設木柱線の掘削時の攪乱と、限定された鉄塔敷地内での調査の為に、遺跡の詳細なる資料を提供するまでに至らなかったが、それでも当地域における古代に展開された社会状況を断片的ではあるが、捉えることが出来たことは本発掘調査の大きな成果であったと言えます。

I 遺跡の位置と環境

古代竪穴住居址が発見された八千代市・印西町・印旛村は、千葉県北半分を占める下総台地の北西部に存在する。遺跡地は、標高20m～30mの低平な台地に立地し、樹枝状に開折のすすんだ洪積台地と河川を中心に発達する沖積地にほとんどが占有している。この地域は印旛沼に比較的近接し、新川・神崎川等の多くの中小河川が流入する水利の豊かな場所で、下総台地の最も自然条件の良い所に位置し、古くは先土器時代から先住民が生活を営んで居たと思われる痕跡や土器片が少なからず認められている。

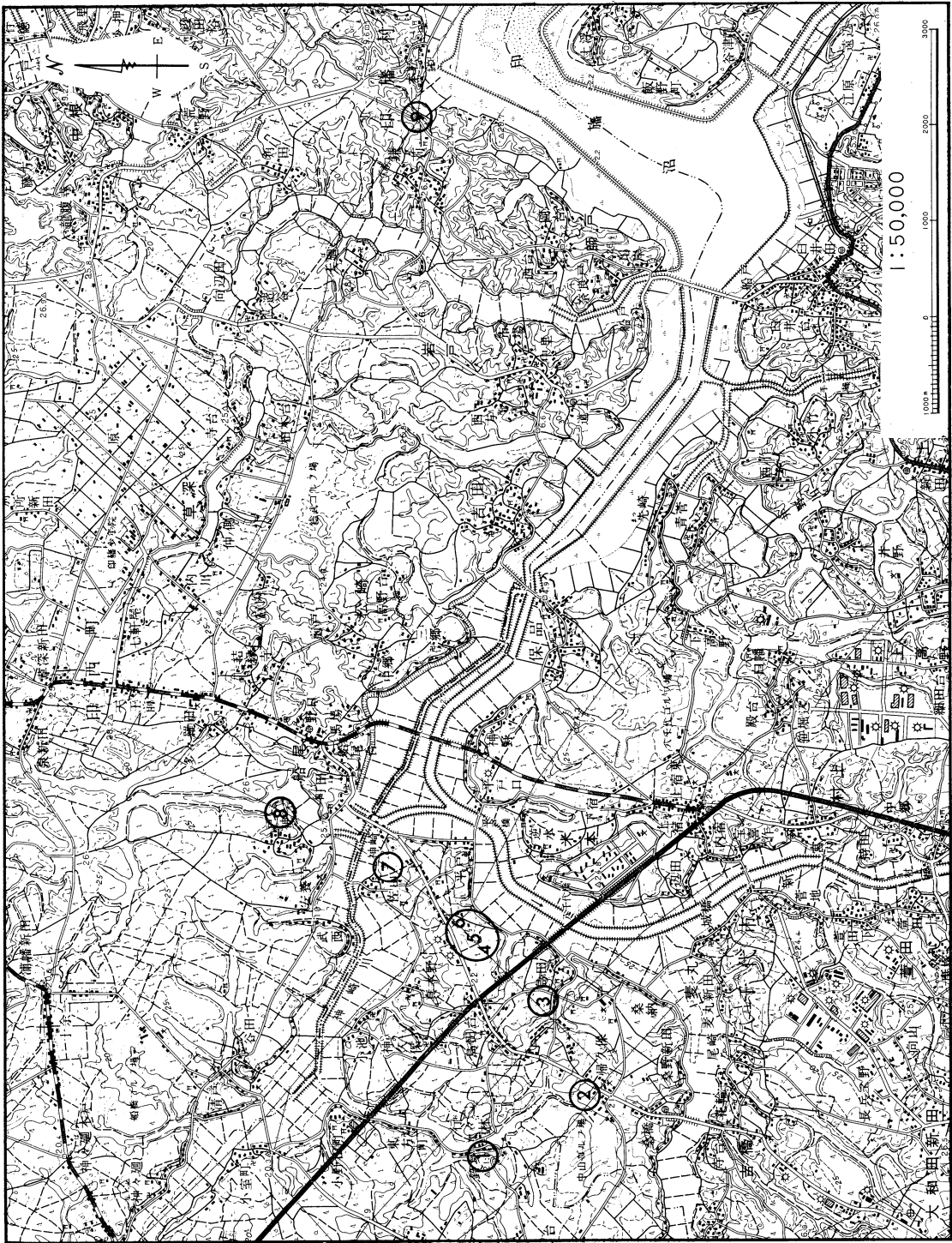
発掘調査は、東京電力千葉支店習志野工務所送電鉄塔建設に際して9ヶ所の土器散布地が確認され、埋蔵文化財保護の面から工事に先掛けて事前に遺跡と認められる地点の発掘調査を行なった。その結果、八千代市・印西町・印旛村の3市町村に亘り5ヶ所の遺跡が確認された。



第1図 千葉県略図

3 島田遺跡

本遺跡は、八千代市島田字大久保に所在し、印旛沼より注ぐ新川を東に、神崎川を北に望む標高20m前後の台地上に位置し、遺跡地周辺には、東方向3Kmの新川左岸台地上におおびた遺跡（弥生時代後期～古墳時代中期）、南東方向3Kmの新川左岸台地上には、村上遺跡群・名主山遺跡（古墳時代～歴史時代）が存在し、南西1Kmの近接した地点には桑納前畑遺跡（歴史



第2図 遺跡概観図

注 番号は遺跡地を表わす

時代)、その他台地縁辺にいくつかの遺跡が点在している。遺跡地は、僅かに斜面となっており、遺構確認面は表土より -30 cm ～ -40 cm と比較的浅く、雑木等による攪乱が遺構確認面であるソフトローム層上面まで入り込んでいた。発掘調査は、東京電力鉄塔敷地範囲に合わす形で幅 2 m のトレニチを十字に設定し、発掘調査を行なった。その結果、平安時代の竪穴住居址1基、時期不明の溝状遺構1基を検出した。

4 神久保間見穴遺跡

本遺跡は、八千代市神久保字平戸に所在し、前述の島田遺跡より新川を約 1 Km 程印旛沼に向ってのぼり、神崎川を北に望む標高 20 m 前後の台地上に位置する。遺跡地は、篠と芋蔓が生えている荒地になっており、遺構確認面は表土より -30 cm ～ -40 cm と比較的浅かったが、遺構の保存状態は良好であった。発掘調査は、一辺が 20 m の鉄塔敷地に合わす形で 4 m のグリットを設定し、調査を行なった。その結果、平安時代の竪穴住居址1基、時期不明の溝状遺構1基を検出したが、竪穴住居址は鉄塔敷地外に延びていた為に、完掘できなかった。

7 佐山寺の下遺跡

本遺跡は、八千代市佐山字寺の下に所在し、印旛沼より注ぐ新川を東に、神崎川を北に望む標高 20 m 前後の舌状台地の先端部に位置する。遺跡地近くには、縄文時代中期の佐山貝塚、古噴時代前・中期の佐山遺跡等が、台地縁辺に所在している。発掘調査は、一辺が 20 m の鉄塔敷地範囲に合わす形で 4 m のグリットを設定し、調査を行なった。表土より遺構確認面迄の深さは、 -30 cm ～ -40 cm と比較的浅く、検出された遺構は、重複関係にある古噴時代中期の住居址と平安時代の竪穴住居址2基であった。

8 戸神遺跡

本遺跡地は、印旛郡印西町字大宮崎に所在し、前述の佐山寺の下遺跡と神崎川を境にして、北側の標高 22 m 前後の舌状台地先端部に位置する。遺跡地は、傾斜面となっており、遺構確認面は表土より -60 cm ～ -100 cm を測り、遺跡中央には

東京電力既設木柱線が立っていた為に、掘削時の攪乱等が表土より-250cmの深さ迄達しており、遺構の検出は極めて困難であった。発掘調査は、一辺が20mの鉄塔敷地範囲に合わす形で4mのグリットを設定し、調査を行なった結果、古墳時代の竪穴住居址2基、時期不明の竪穴住居址1基を検出した。

9 鎌苅遺跡

本遺跡地は、印旛村鎌苅字田に所在し、印旛沼を南に望む標高30m前後の台地東端部に位置する。周辺には、印旛沼を境にして南側の台地上に江原台遺跡・間野台・古屋敷遺跡（縄文時代中期・弥生時代後期～歴史時代）など既知の遺跡が数多く点在している。遺跡地は、元京成バス営業所が建っていた場所で、営業所内に玉ジャリを敷き詰め、コンクリートの池が作ってあった為、これら障害物を撤去し、遺構の確認を行なうのは、非常に困難であった。検出された住居址は、縄文時代後期の住居址1基で、コンクリートの池が住居址を破壊する形で作られていたので、残存状態は極めて不良であった。

以上5遺跡の発掘調査を通して、限定された東京電力鉄塔敷地内での調査ではあったが、それでも当地域における古代に展開された社会状況を断片的ではあるが、捉えることが出来たことは大きな成果であったと言えます。

参 考 資 料

房総考古資料刊行会『八千代市村上遺跡群』昭和49年

名主山遺跡調査団『名主山遺跡』昭和47年

おおびた遺跡調査団『おおびた遺跡』八千代市教育委員会 昭和50年

睦小学校北方遺跡調査会『桑納前畑遺跡』昭和53年

佐倉市遺跡調査『臼井南』佐倉市教育委員会 昭和50年

江原台第1遺跡発掘調査団『江原台』昭和54年

千葉県都市公社文化財調査事務所『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』

房総考古資料刊行会『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』

Ⅱ 八千代市・船橋市遺跡調査会調査日誌

昭和53年11月6日(月)

午前9時より東京電力習志野工務所で調査器材の点検と借用を行なう。午後より島田遺跡のグリット設定を行なう。

11月7日(火)～11月9日(木)

島田遺跡・神久保間見穴遺跡・平戸台遺跡の草刈と整地作業終了後、グリット及びトレンチ設定を行なう。グリット及びトレンチ設定状況写真撮影と遺跡地内への標高移動を行なう。また発掘調査で掘った残土置場については、東京電力鉄塔敷地内に置く事とする。

11月10日(金)～11月12日(日)

神久保間見穴遺跡・平戸台遺跡・平戸西の上遺跡・佐山寺の下遺跡のグリット及びトレンチ設定を終了する。島田遺跡のグリット発掘調査を行ない、表土より確認面迄の深さ-20cm～-40cmの位置で黒色の落ち込みを検出する。

11月13日(月)～11月16日(木)

神久保間見穴遺跡のグリット発掘調査を行ない、表土より確認面迄の深さ-30cmの位置で溝と住居址と思われる黒色土の落ち込みを確認する。平戸台遺跡・平戸西の上遺跡のグリット及びトレンチ発掘調査を行なったが、遺構と出土遺物は検出されなかった。

11月17日(金)～11月21日(火)

島田台鶴作台遺跡のグリット設定と写真撮影を行ない、グリット発掘を開始する。遺跡の現状は畑地で、表土より確認面迄の深さ-40cmより深く耕作が入り、出土した土器片のほとんどが破片であった。

11月22日(水)～11月27日(日)

島田遺跡・神久保間見穴遺跡のグリット拡張調査を開始したが、雨天が続き発掘作業は余り進展が見られなかった。

11月28日(火)～11月30日(木)

島田遺跡・神久保間見穴遺跡のグリット拡張調査を終了し、佐山寺の下遺跡のグリット発掘調査を開始する。佐山寺の下遺跡からは、暗褐色土の落ち込みの中に竪穴住居址2基の存在を確認する。

12月1日(金)～12月5日(火)

島田遺跡第2号溝状遺構と神久保間見穴遺跡第2号溝状遺構の発掘調査を開始する。

12月6日(水)～12月8日(金)

島田遺跡第1号住居址の発掘調査に入った結果、住居址の状態は形態が方形プランを呈し、北壁中央にカマドが付設されていた。出土遺物は床面近くより、土師器杯が2点出土している。神久保間見穴遺跡第1号住居址の発掘調査を開始する。

12月9日(土)～12月15日(金)

神久保間見穴遺跡第1号住居址調査と第2号溝状遺構の発掘調査を行なう。1号住居址は、西壁部分が調査区域外に延びていた為、完掘できず北壁部に付設されたカマドより西壁部に掛けて未発掘となった。第2号溝状遺構は、鉄塔敷地内での限られた確認の為に出土遺物もなく詳細は不明である。佐山寺の下遺跡第1号住居址、第2号住居址の発掘調査を開始する。第1号住居址は、第2号住居址と重複する関係にあったが、第1号住居址が第2号住居址の北壁部を切るように営まれていたので、第1号住居址が新しい状況を示していた。

12月16日(土)～12月26日(火)

新たに鈴身遺跡・戸神遺跡・鎌苅遺跡の発掘調査を開始する。鈴身遺跡は、表探土器が数点出土しただけで、遺構は確認されなかった。戸神遺跡は、竪穴住居址3基の落ち込みを確認したが、既設電柱があった為掘削時の攪乱等により残存状態は

極めて不良であった。鎌苧遺跡は、縄文時代後期の住居址1基を確認し発掘調査を行なったが、住居址のある場所が元京成バス営業所の建物があった為、住居址の残存状態は極めて悪かった。

12月27日(水)～12月29日(金)

戸神遺跡の発掘調査と正月休み中の遺跡地安全対策を行なう。

12月30日(土)～昭和54年1月4日(木)

正月休み

1月5日(金)～1月10日(水)

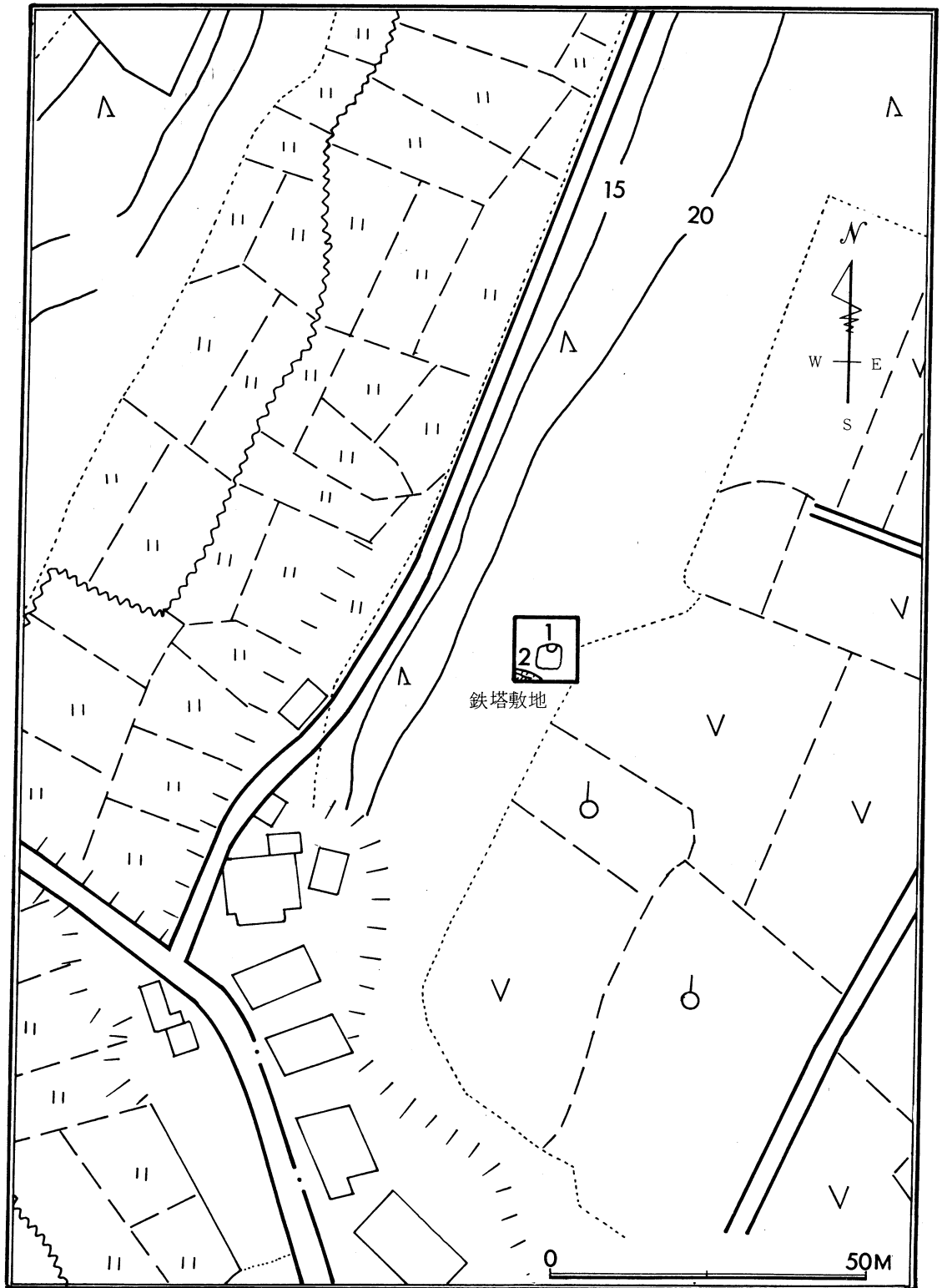
戸神遺跡第1号住居址、第2号住居址、第3号住居址の発掘調査を行なう。戸神遺跡は東京電力の既設木柱線掘削時の攪乱により、極めて住居址の保存状態は悪かった。

1月11日(木)～1月13日(土)

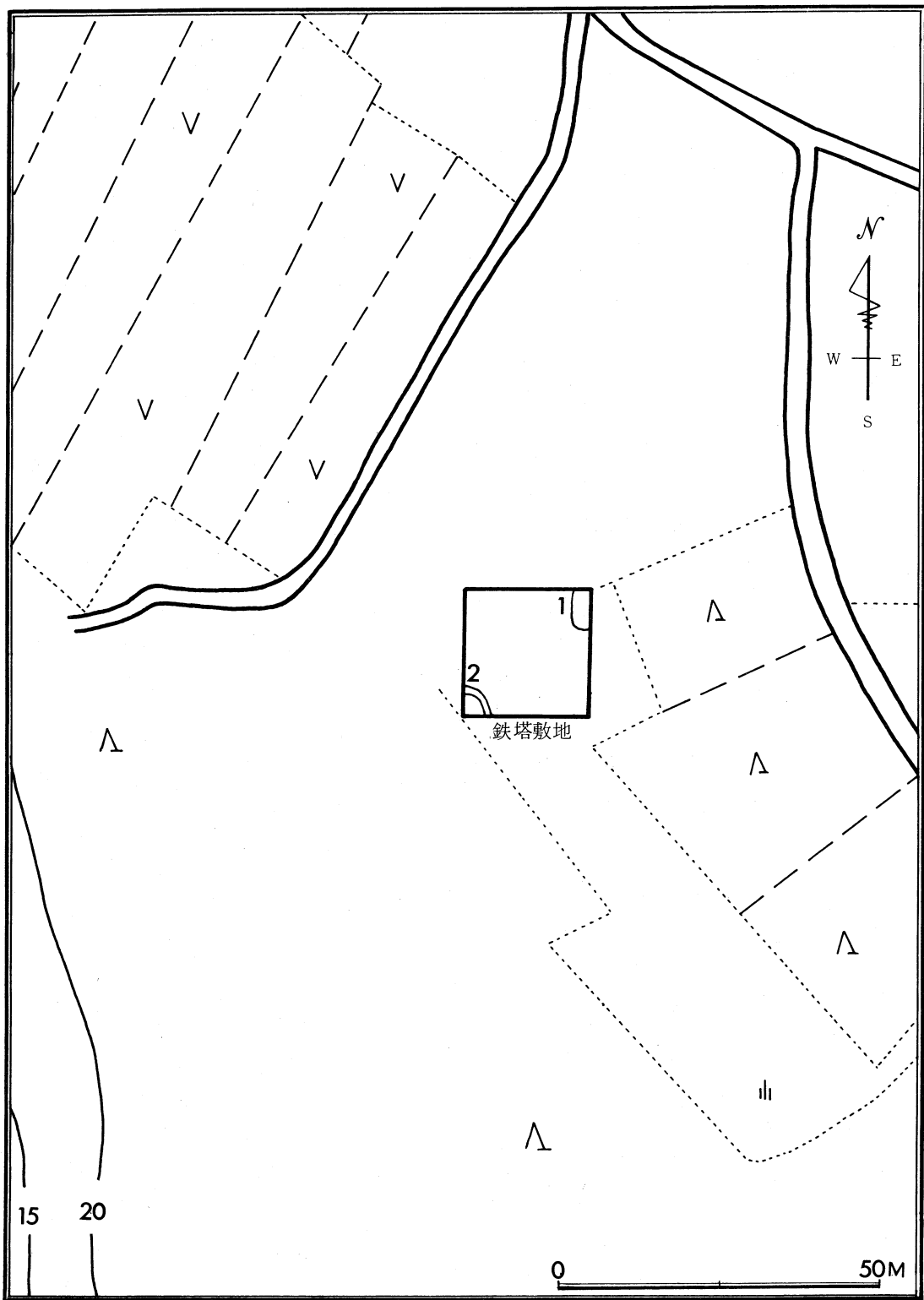
戸神遺跡の住居址写真撮影と切断を行ない、調査を終了する。

発掘調査地点と調査期間

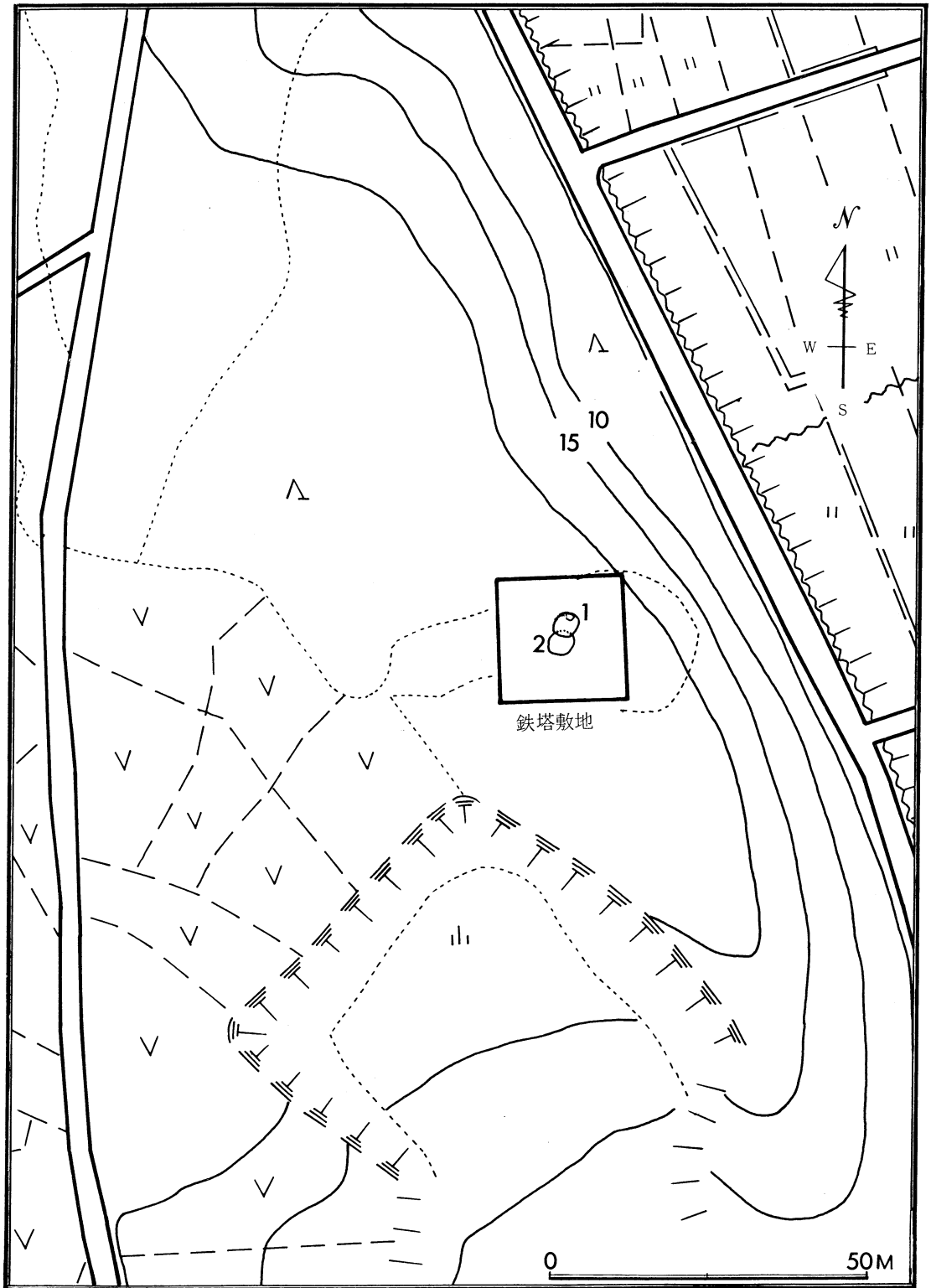
地点	遺跡名	所在地	遺跡の現状	調査期間	住居址	出土遺物	時期
1	鈴身遺跡	船橋市鈴身町	既設鉄塔敷地内	昭和53年12月16日 ～54年1月13日	なし		
2	島田台鶴作台遺跡	八千代市島田台字鶴作台	畑地	昭和53年11月6日 ～12月15日	なし	縄文式土器	
3	島田遺跡	八千代市島田字大久保	荒地	昭和53年11月6日 ～12月15日	1基 溝1基	土師器坏	国分
4	神久保間見穴遺跡	八千代市神久保字平戸	荒地	昭和53年11月6日 ～12月15日	1基 溝1基	土師器坏・甕・砥石	国分
5	平戸台遺跡	八千代市島田台字平戸台	荒地	昭和53年11月6日 ～12月15日	なし		
6	平戸西の上遺跡	八千代市佐山字寺の下	荒地	昭和53年11月6日 ～12月15日	なし		
7	佐山寺の下遺跡	八千代市佐山字寺の下	荒地	昭和53年11月6日 ～12月15日	2基	土師器坏 高坏	国分 和泉
8	戸神遺跡	印旛郡印西町字大宮崎	荒地	昭和53年12月16日 ～54年1月13日	3基	土師器坏・ 罎・甕	鬼高 五領
9	鎌苧遺跡	印旛村鎌苧字田	京成バス営業所跡	昭和53年12月16日 ～54年1月13日	1基	石皿・深鉢 浅鉢・甕	



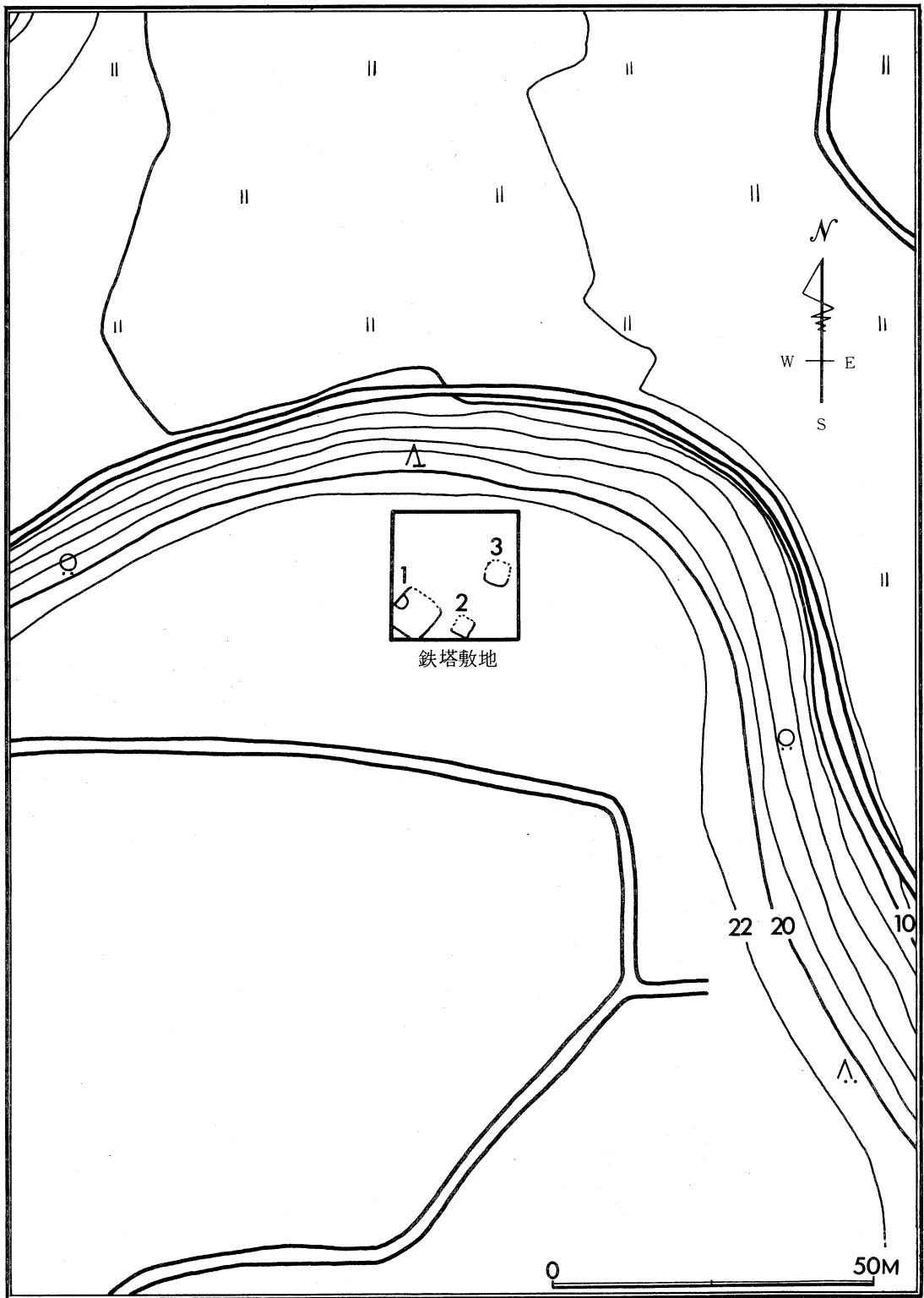
第3図 島田遺跡全測図



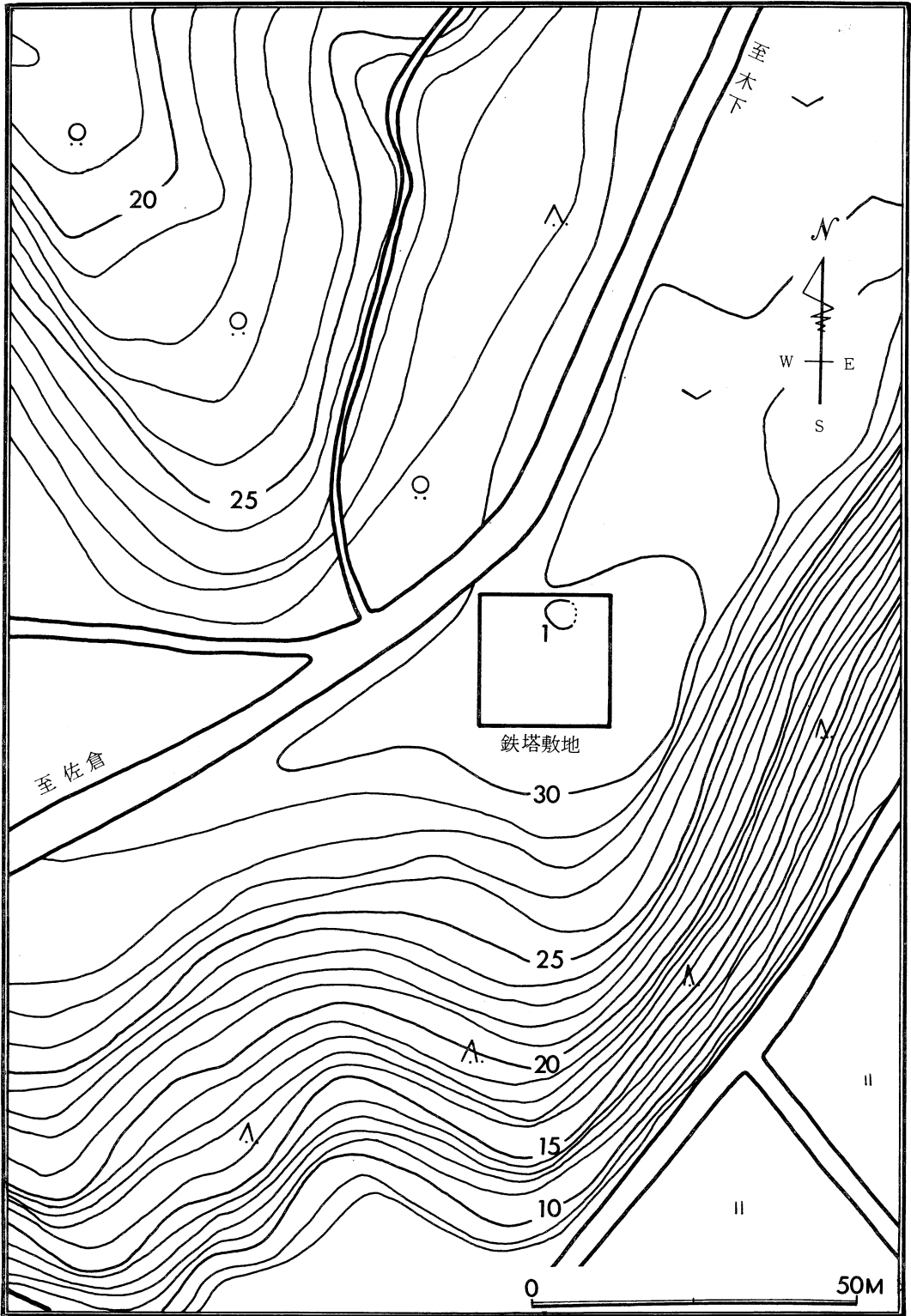
第4図 神久保間見穴遺跡全測図



第5図 佐山寺の下遺跡全測図



第6図 戸神遺跡全測図



第7図 鎌苅遺跡全測図

Ⅲ 発掘された堅穴遺構と出土遺物

島田遺跡第1号住居址（挿図第8図、図版第一図の1）

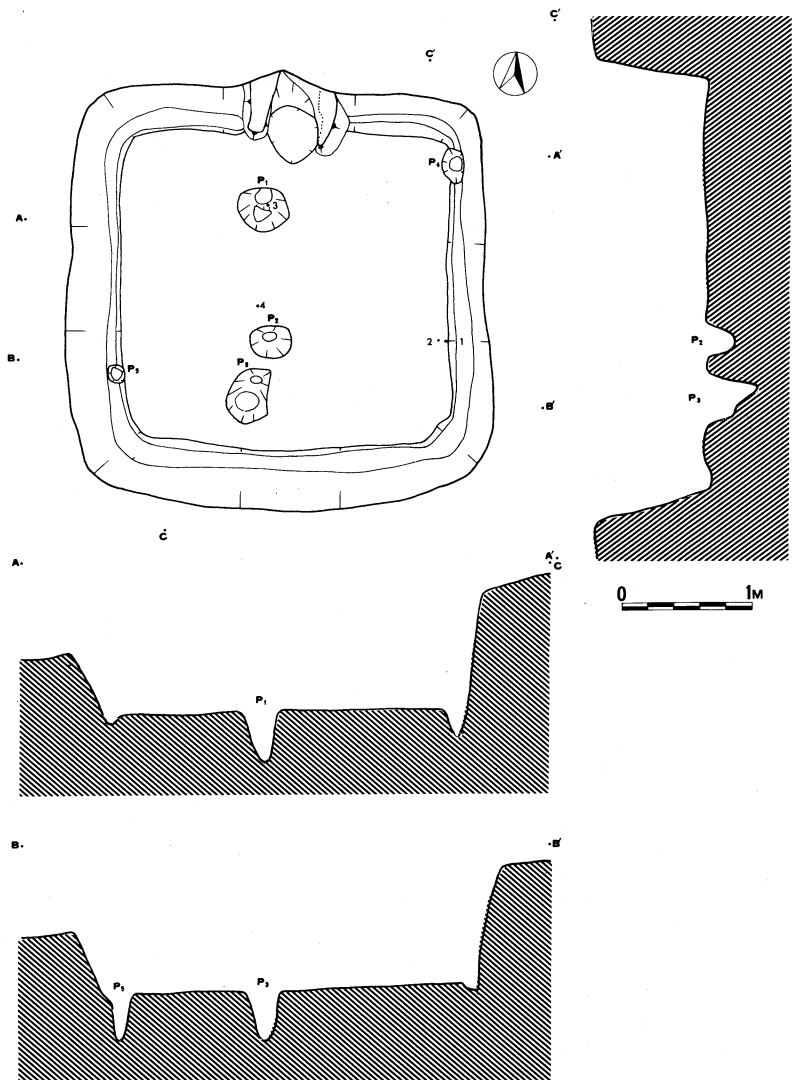
本住居址は褐色土が混在するソフトローム層の最上面より、堅穴の掘り込みが確認された。堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、床面より覆土上部に掛けて黒色土（ローム粒を含む）の単一土層であった。

堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西326cm×南北326cmを測り、形態が方形プランを呈し、主軸方向はN-10°-Wを示している。堅穴の壁高は、床面よりローム壁上まで50cm～90cmを測り、壁面の立ち上がりは外傾斜を示している。

堅穴内部の状態は、床面が平らで堅く、比較的良く踏み込まれた痕跡を留めている。堅穴内部で検出された遺構は、壁溝、ピット、カマドである。

壁 溝

溝は四壁下で認められ、溝の規模は幅が32

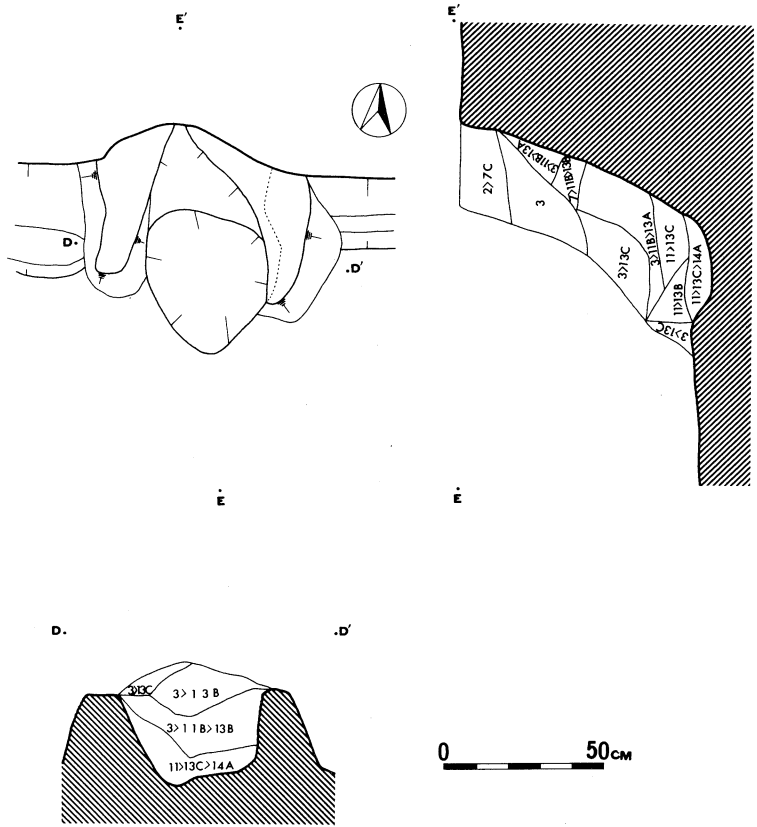


第8図 島田遺跡第1号住居址平面実測図

cm～44cm、深さが-10cm～-20cmを測り、断面はU字形を呈している。

ピット

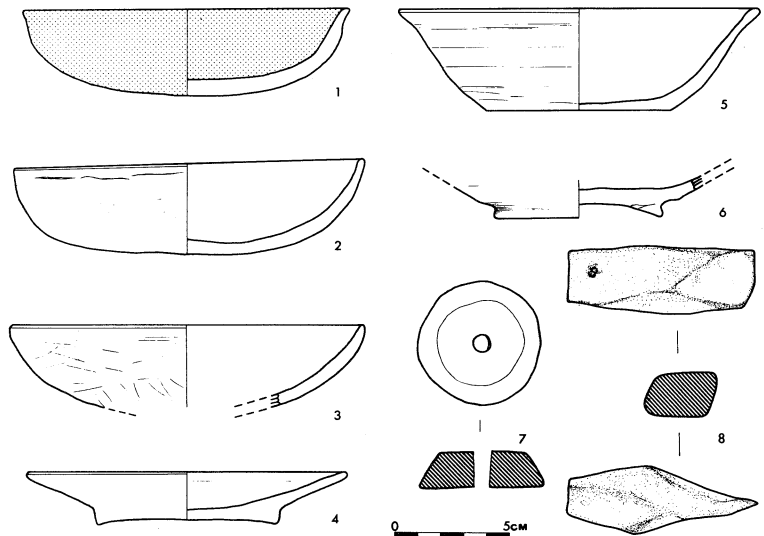
床面上で検出されたピットは、P₁～P₅の5本である。ピットの規模は、P₁が径40cm×36cm・深さ-40cm、P₂が径32cm×26cm・深さ-24cm、P₃が径30cm×40cm・深さ-40cm、P₄が径18cm×24cm・深さ-30cm、P₅が径15cm×15cm・深さ-32cmを測る。ピット内の覆土は、暗褐色土が単一に堆積している。



第9図 島田遺跡第1号住居址カマド実測図

カマド

北壁中央に付設されたカマドは、ローム壁を一部利用して付設したもので、構築材料には粘土と砂を使用している。カマドの構造は、焚口部が住居の床面より僅かに窪み状を呈して深くなり、焼土と灰が厚く堆積している。



第10図 島田遺跡第1号住居址出土の土器実測図

燃焼部は窪み状で深く、煙道部に至ってはローム壁を急勾配で立ち上がっている。
煙出し部は竪穴屋外に約16cm張り出している。

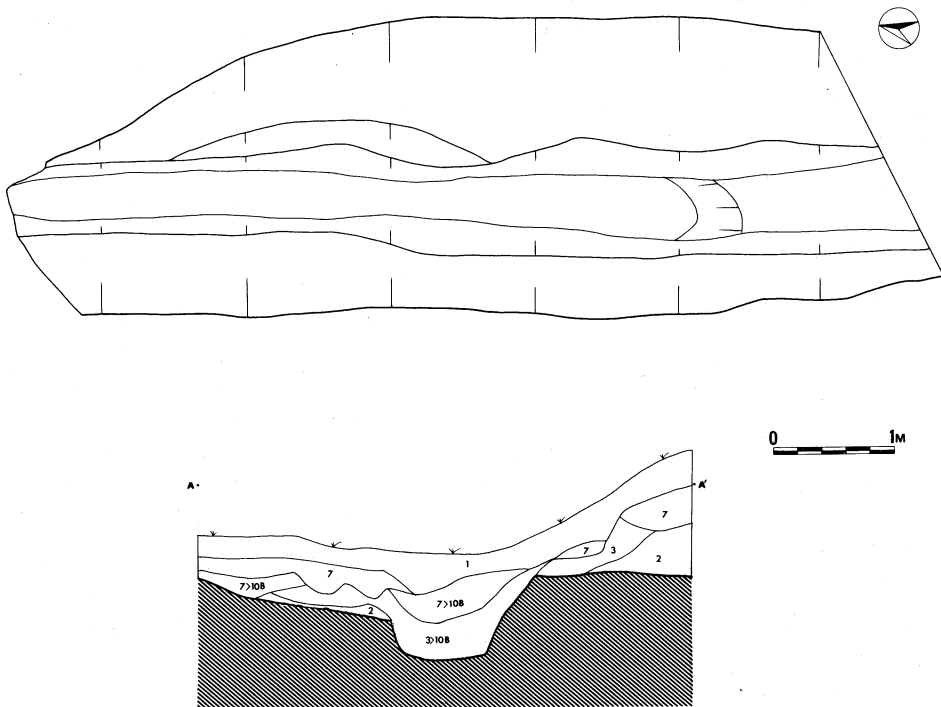
出土遺物

住居址内からの出土遺物は、No.1～No.2の土師器坏で東壁下で重なる状態で出土し、No.3土師器坏はカマド焚口より床中央寄りの位置より出土した。No.4土師器坏は床面中央より検出され、覆土中より出土した遺物は、土師器坏2点と石製紡錘車であった。またNo.1の坏内外面には赤塗りが施されていた。

島田遺跡第2号溝状遺構（挿図第11図、図版第一図の4）

本溝状遺構竪穴の落ち込みは褐色土が混在するソフトローム層の最上面で確認された。溝に堆積した覆土の状態は、床底面より30cmの所迄ローム粒を含む暗褐色土、その上部にローム粒を含む黒色土、表土の順に堆積している。

溝の形態と規模については、掘り込みの上端部で最大幅95cm、底面床部で最大幅95cm、深きは-30cm～-60cm（ローム面）を測る。溝の断面形態は、底面床部より外傾斜を示しながら一度立ち上がり、僅かに傾斜しながら立ち上がる。断



第11図 島田遺跡第2号溝状遺構平面実測図

面形態は、底面が平らなU字形を呈している。

溝内よりの出土遺物は、土師器片が数点出土しただけであった。本溝状遺構は、発掘調査で検出した状態が点の位置にすぎず、規模・内容についての詳細は不明である。

島田遺跡出土遺物要覧

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No 1	土師器 坏	口径 143 器高 38	底部は丸底で、内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	調整は外面へラ削りと刷毛目、内面はへラ磨き痕を認める。	淡褐色	器内外面共に赤塗り。
1号址 No 2	土師器 坏	口径 152 器高 40	底部は丸底で、内湾しながら立ち上がる。	調整は外面へラ削りと撫で、内面も撫で痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 3	土師器 坏	小破片	体部より内湾しながら立ち上がる。	調整は外面へラ削り、内面はへラ磨き痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 4	土師器 坏	口径 140 底径 78 器高 21	底部は僅かに上げ底で、体下部より外反して口縁部に至る。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 5	土師器 坏	底径 80	底部は平底で、内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 6	土師器 坏	底径 72	底部は付け高台。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 7	石製 紡錘車	孔径 8 直径 54 厚さ 16				

神久保間見穴遺跡第1号住居址（挿図第12図、図版第二図の5）

本住居址は、褐色土が混在するソフトローム層の最上面より、堅穴の掘り込みが確認された。堅穴住居址の検出にあたっては、堅穴の北壁カマド部分より西壁部が

調査区域の外側に位置していたため完掘はできなかった。

堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、表土より床面にかけて暗褐色土（黒色土とローム粒を多量に含む）、床面に密着して褐色土と多量の砂と粘土が堆積している。

堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西不明、南北は490cmを測り、堅穴の平面形態は未発掘箇所がある為に不明である。堅穴の壁高は、床面よりローム壁上まで76cm～84cmを測り、壁面の立ち上がりは僅かに外傾斜を帯びている。

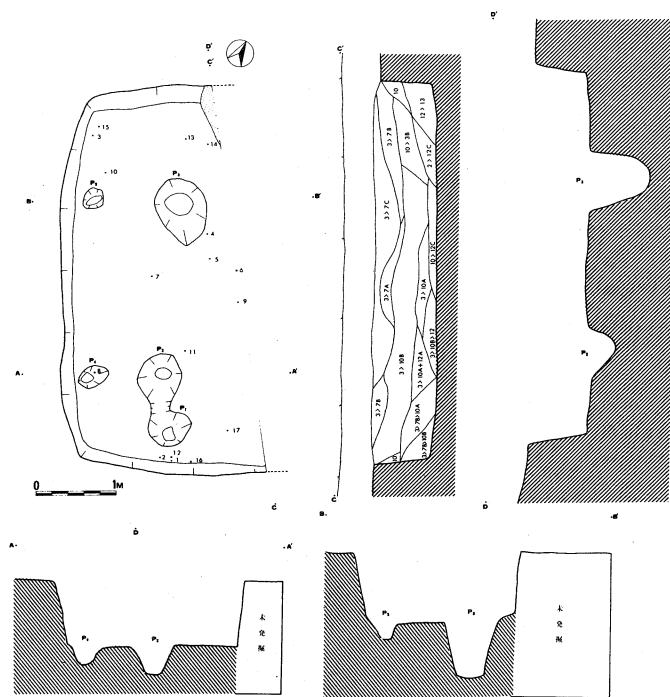
堅穴内部の状態は、床面がほぼ平らで堅く、床の中央部が特に堅固である。北壁未発掘箇所より焼土と粘土・砂の存在が認められ、北壁部にカマドの付設が推測される。堅穴内部で検出された遺構はピットである。

ピット

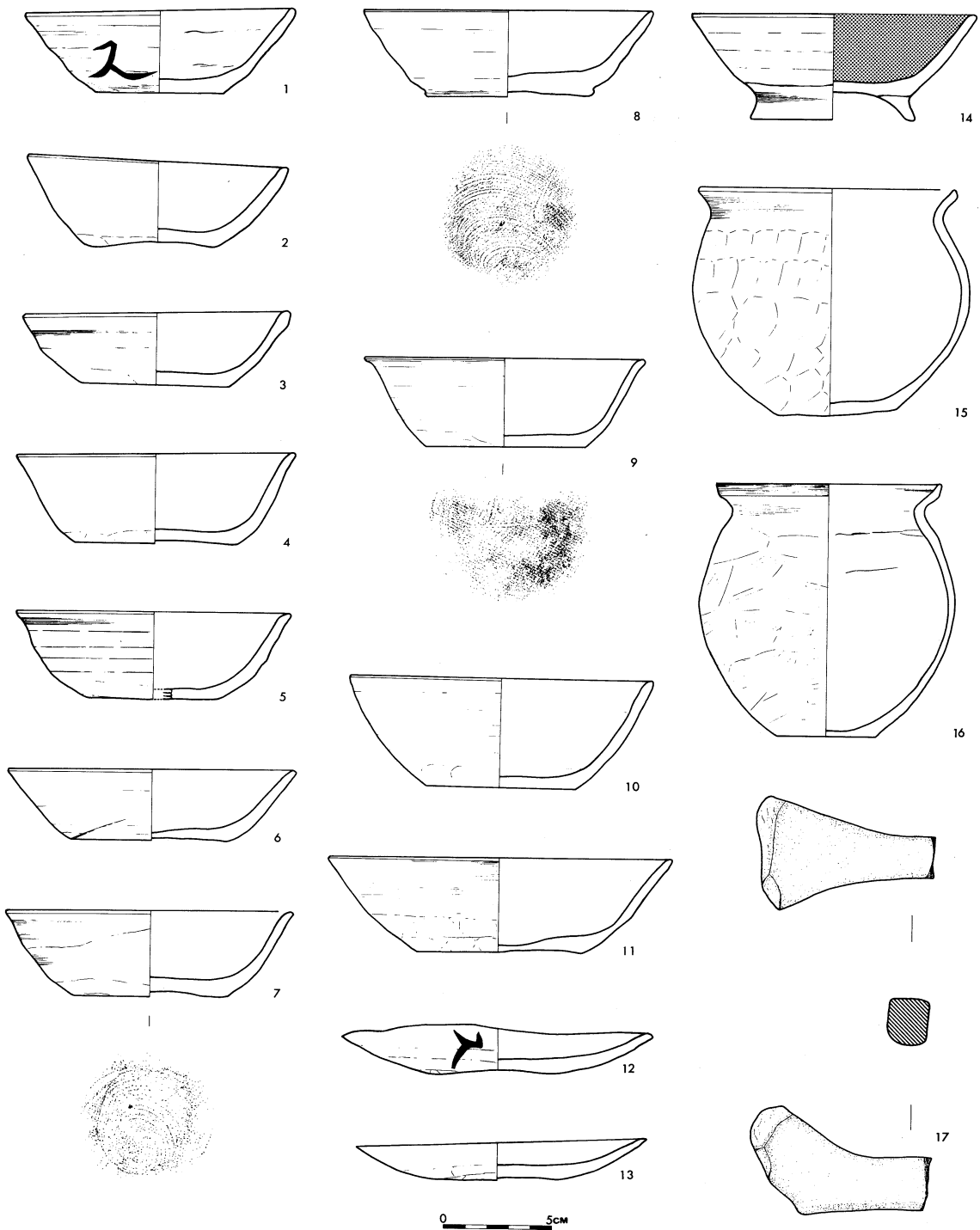
床面上で検出されたピットはP₁～P₅の計5本である。これらのピットの規模は、P₁が径50cm×42cm・深さ-32cm、P₂が径50cm×60cm・深さ-35cm、P₃が径60cm×70cm・深さ-74cm、P₄が径34cm×28cm・深さ-14cm、P₅が径24cm×26cm・深さ-17cmを測る。

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、床面より土師器坏14点（No.1～No.13坏、No.14高台付の坏）甕2点（No.15・No.16）砥石1点（No.17）が出土している。No.1、No.12の坏は、墨書土器である。



第12図 神久保間見穴遺跡第1号住居址平面実測図

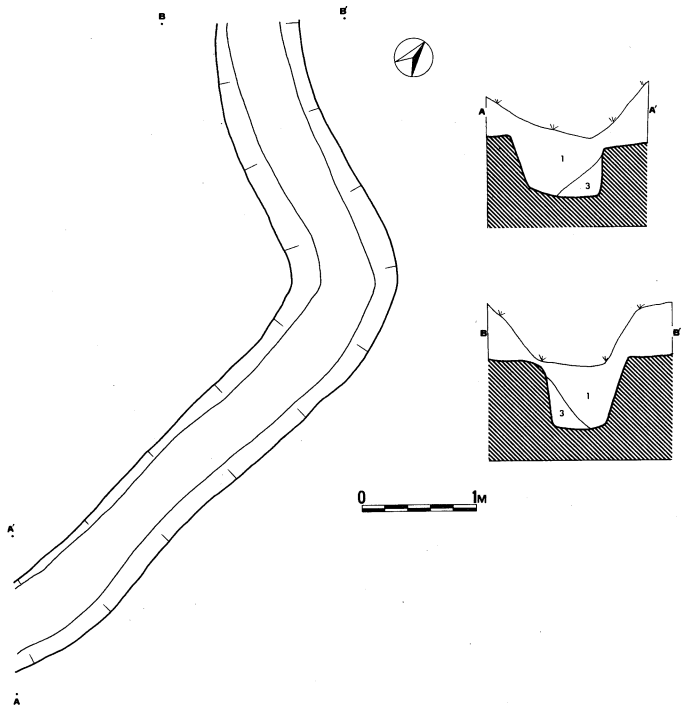


第13図 神久保間見穴遺跡第1号住居址出土の土器実測図

神久保間見穴遺跡第2号溝状遺構（挿図第14図、図版第四図の18）

本遺構は、発掘調査を開始する前に鉄塔敷地内で溝の存在が確認され、畑地と山林部の境界として掘られたものであると推測された。

溝の形態と規模については、掘り込みの上端部で最大幅約80cm、底面床部で最大幅60cm、深さ40cm～60cm（ローム面）を測る。溝の断面形態は、床底面より外傾斜を示しながら立ち上がり、床底面が平らなU字形を呈している。



第14図 神久保間見穴遺跡第2号溝状遺構平面実測図

出土遺物は、土師器破片が数点出土しただけであった。

神久保間見穴遺跡出土遺物要覧

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No 1	土師器 坏	口径 124 底径 58 器高 38	底部は平底で、若干外反しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	器外面体部に墨書有り。
1号址 No 2	土師器 坏	口径 120 底径 53 器高 40	底部は上げ底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No 3	土師器 坏	口径 123 底径 66 器高 34	底部は平底で、僅かに内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好 器内外面共に一部黒色化。
1号址 No 4	土師器 坏	口径 128 底径 76 器高 42	底部は僅かに上げ底で、内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好 胎土に多量の雲母を含む。

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No.5	土師器 坏	小破片	底部は平底で、体下部より内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.6	土師器 坏	小破片	底部は僅かに上げ底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。調整は外面体下部と底部にヘラ削り痕有り。	淡褐色	焼成良好 胎土に多量の雲母を含む。
1号址 No.7	土師器 坏	小破片	底部は上げ底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.8	土師器 坏	底径 76	底部は上げ底で、若干内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.9	土師器 坏	底径 37	底部は平底で、若干外反しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.10	土師器 坏	口径 140 底径 70 器高 51	底部は平底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.11	土師器 坏	底径 76	底部は僅かに上げ底で、若干内湾しながら立ち上がる。	調整は外面体上部に刷毛目、体下部より底部に掛けてヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好 器内面にスス附着。
1号址 No.12	土師器 坏	口径 144 底径 50 器高 21	底部は上げ底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は底部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.13	土師器 坏	口径 132 底径 58 器高 18	底部は僅かに上げ底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は体下部より底部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.14	土師器 坏	底径 76	底部は付け高台。	ロクロ成形。底部切り離しは糸切り。	淡褐色	器内面黒塗り。
1号址 No.15	土師器 甕	口径 120 底径 54 器高 105 最大径 128	底部は平底で、最大径が胴部にあり内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	調整は外面体部より底部に掛けてヘラ削り、内面は撫で痕を認める。	褐色	焼成良好 器内外面共に一部黒色化。
1号址 No.16	土師器 甕	底径 40	底部は平底で、最大径が胴部にあり内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	調整は外面ヘラ削りと刷毛目痕を認め、内面は撫で痕を認める。	赤褐色	焼成良好
1号址 No.17	砥石		四角柱状の砥石で、四面に使用痕が認められる。			

佐山寺の下遺跡第1号住居址（挿図第16図、図版第四図の19）

本住居址は、褐色土が混在するソフトローム層の最上面より、堅穴の掘り込みが確認された。発掘によって検出された本住居址は、2号址と重複する関係にあったが、本号址が2号址の北壁部を切るようにして営まれていたので、本号址が新しい状況を示していた。

堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、床面より覆土上部に掛けて暗褐色土（ローム粒と黒色土を含む）が堆積し、表土に至っている。

堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西290cm×南北270cmを測り、形態が隅丸方形プランを呈し、主軸方向はN-20°-Eを示し、堅穴の壁高は床面よりローム壁上まで30cm～50cmを測り、壁面の立ち上がりは外傾斜を帯びて掘られている。

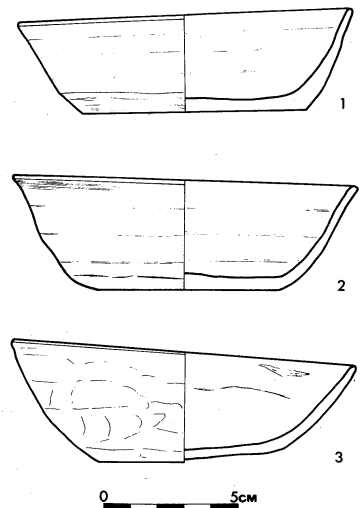
堅穴内部の状態は、床面がほぼ平らで堅く、良く踏み込んだ痕跡を留めている。堅穴内部で検出された遺構は、ピット、カマドである。

ピット

床面で検出されたピットは、P₁の1本である。ピットの規模は、径が34cm×36cm・深さ10cmを測る。

カマド

北壁中央に付設されたカマドは、ローム壁を一部利用して設けており、残存状態は比較的良好である。カマドの規模は壁面幅で94cm、壁面より住居址中央にかけて70cm、ローム壁面を屋外に10cm張り出している。構築材料は粘土と砂で築き、構造的には焚口部・燃烧部・煙道に分かれている。焚口部は、床面より僅かに低く燃烧部にかけてやや窪み状を呈して傾斜し、この箇所には焼土・灰が多量に堆積している。燃烧部は、壁の内側にあり、煙道はローム壁を削って急傾斜の登り勾配を造って外部に張り出している。

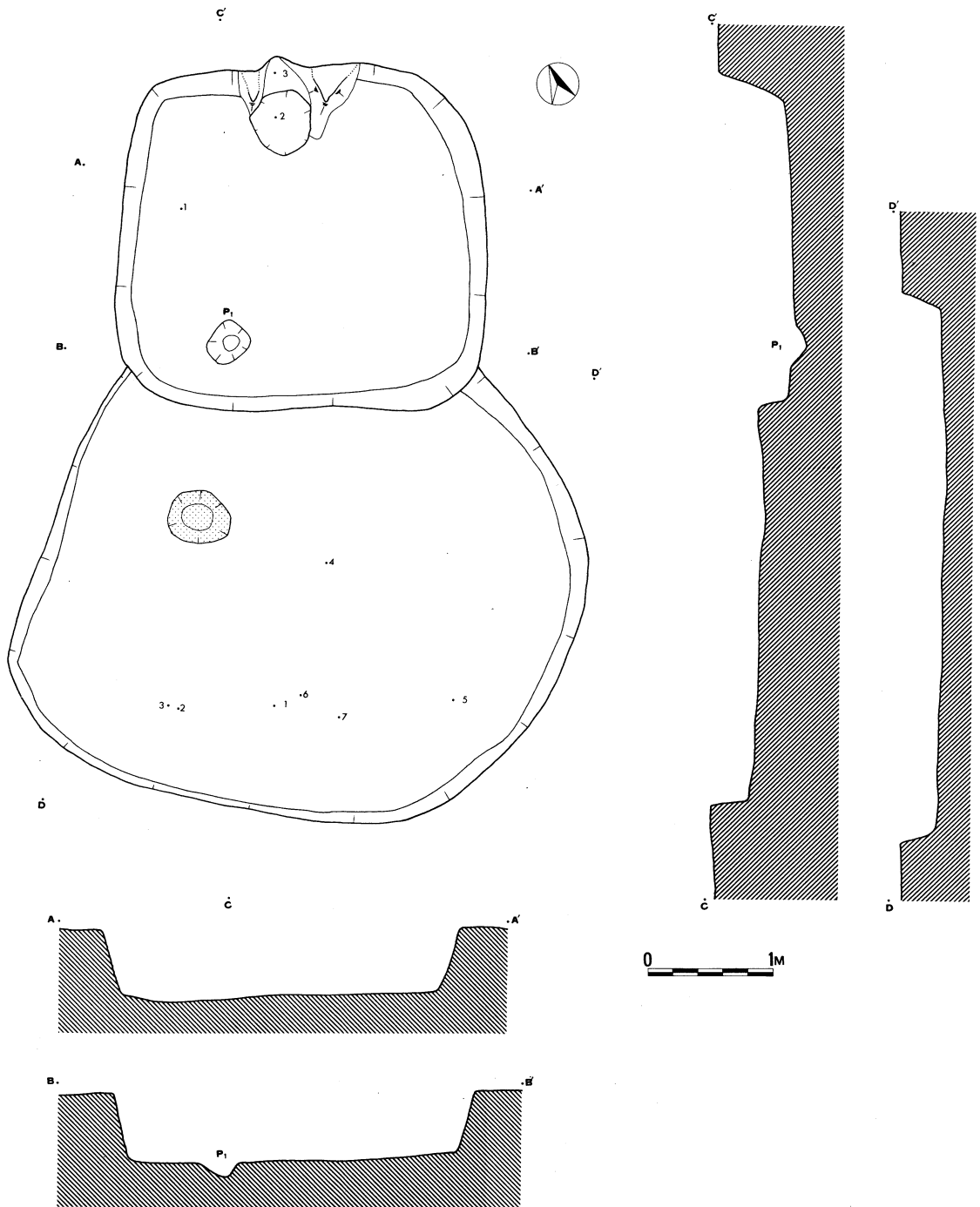


第15図 佐山寺の下遺跡
第1号住居址出土の土器実測図

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、床面より土師器（No.1坏）

が出土し、カマド内より土師器（No. 2、No. 3 坏）が出土している。

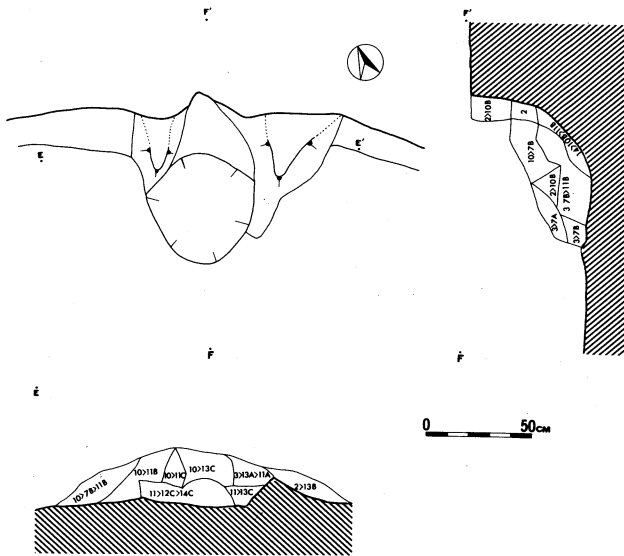


第16図 佐山寺の下遺跡第1号・第2号住居址平面実測図

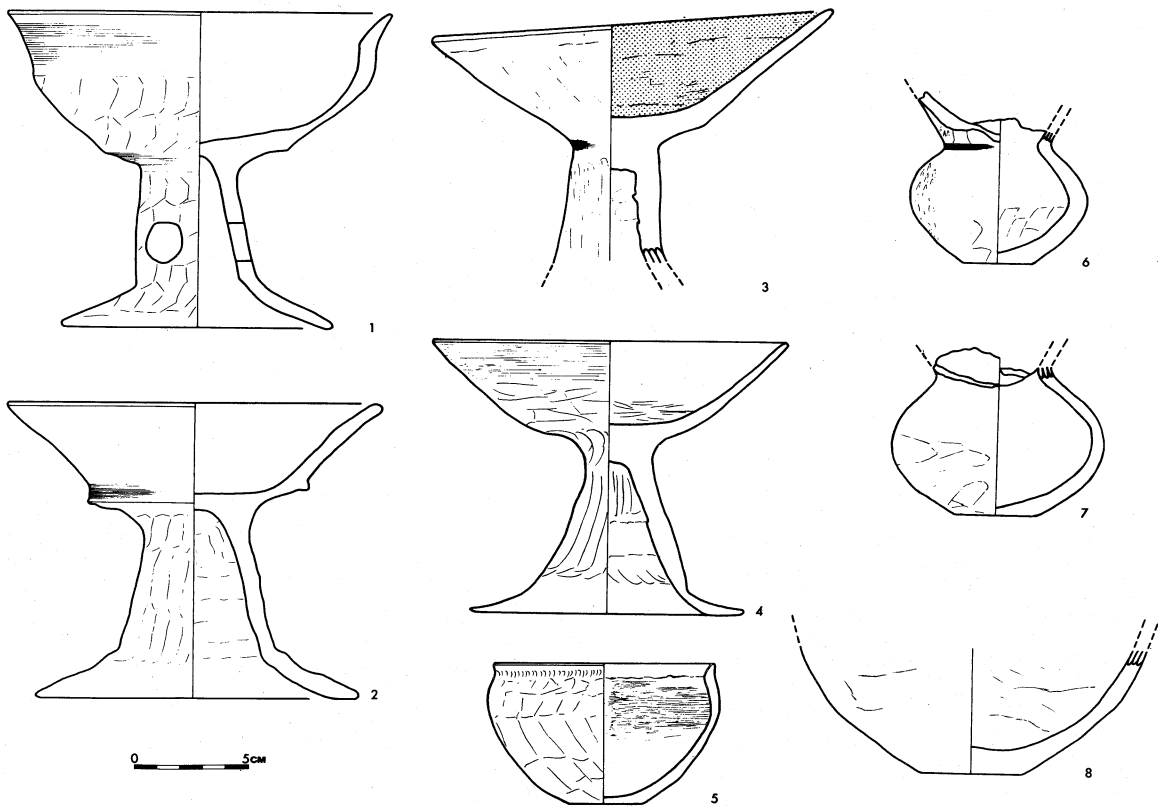
佐山寺の下遺跡第2号住居址（挿図第16図、図版第五図の20）

本住居址は、褐色土が混在するソフトローム層の最上面より、堅穴の掘り込みが確認され、1号址によって堅穴の北壁部分が失なわれていた。

堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、床面より覆土上部に掛けて褐色土（ローム粒を多量に含む）が床面に接着して位置し、その上に暗褐色土（黒色土を含む）が堆積している。



第17図 佐山寺の下遺跡第1号住居址カマド実測図



第18図 佐山寺の下遺跡第2号住居址出土の土器実測図

堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西414cm×南北不明、形態が不整隅丸方形プランを呈している。堅穴の壁高は、床面よりローム壁上まで30cm～34cmの高さを測る。

堅穴内部の状態は、壁面の立ち上がりが外傾斜を示して立ち上がる。床面は、ほぼ平らな状態を示し、堅く踏み込んだ痕跡が認められ、特に床面中央部が堅固である。堅穴内部で検出された遺構は炉址である。

炉 址

堅穴床面の中央部北西側に位置する炉址は、その規模が径50cm×42cm・深さが最深部で-6cmを測り、断面が浅い窪み状を呈している。炉址内の焼土の堆積は薄く、火床に加熱された状態が認められる。

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、床面より土師器（No.1～No.4高坏、No.5坏、No.6埴No.7底部）が出土し、覆土中よりNo.8土師器埴が出土している。

佐山寺の下遺跡出土遺物要覧

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No.1	土師器 坏	口径 124 底径 78 器高 37	底部は平底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。調整は外面体下部にヘラ削り痕を認める。	褐色	焼成良好
1号址 No.2	土師器 坏	口径 128 底径 68 器高 42	底部は平底で、内湾しながら立ち上がる。	ロクロ成形。底部切り離しはヘラ切り。	淡褐色	焼成良好
1号址 No.3	土師器 坏	口径 130 底径 68 器高 41	底部は脹らみを持つ平底で、内湾しながら立ち上がる。	調整は外面ヘラ削り、内面に撫で痕を認める。	淡褐色	焼成良好
2号址 No.1	土師器 高坏	口径 168 底径 119 器高 138	坏体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で外反する。脚部はやや脹らみを持って開き、底部はラッパ状に開く。	調整は外面口縁部撫で、体部より底部に掛けてヘラ削り、内面はヘラ磨き痕を認める。	淡褐色	焼成良好 器外面一部黒色化。
2号址 No.2	土師器 高坏	口径 164 底径 151 器高 130	坏部は体下部に稜を有し、外反して立ち上がる。脚部はハの字状に開き、底部はラッパ状に開いている。	調整は内外面共に坏部撫で、脚部はヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成良好

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
2号址 No 3	土師器 高坏	小破片	坏部は内湾して立ち上がり、脚部は直線的に開く。	調整は外面へラ削り、内面は撫で痕を認める。	淡褐色	坏部内面赤塗り。焼成良好
2号址 No 4	土師器 高坏	底径 120 器高 120	坏部は内湾して立ち上がり、脚部はハの字状に開き、底部はラップ状に開いている。	調整は外面口縁部撫で、体部へラ削り、内面は撫で痕を認める。	褐色	焼成良好
2号址 No 5	土師器 坏	底径 30	内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	調整は外面へラ削り、内面刷毛目を認める。	赤褐色	焼成良好
2号址 No 6	土師器 埴	底径 30 胴幅 77	底部は平底で、内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	調整は外面へラ削りとへラ磨き、内面は撫で痕を認める。	淡褐色	焼成不良
2号址 No 7	土師器 底部	底径 46	底部は平底で、内湾しながら立ち上がる。	調整は内外面共に撫で痕を認める。	淡褐色	焼成不良
2号址 No 8	土師器 埴	底径 34 胴幅 92	底部は平底で、内湾しながら口縁部に至る。	調整は外面へラ削り、内面撫で痕を認める。	淡褐色	焼成良好

戸神遺跡第1号住居址（挿図第19図、図版第六図の24）

本住居址は、地表下70cmの位置で堅穴の掘り込みが確認されたが、本遺跡地は発掘調査を開始する以前から、東京電力の木柱線が立っていた為、掘削時の攪乱が激しく住居址の残存状態は極めて不良であった。

堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、床面より覆土上部に掛けて暗褐色土、黒色土にローム粒混入、黒色土の順で堆積し、表土に至っている。

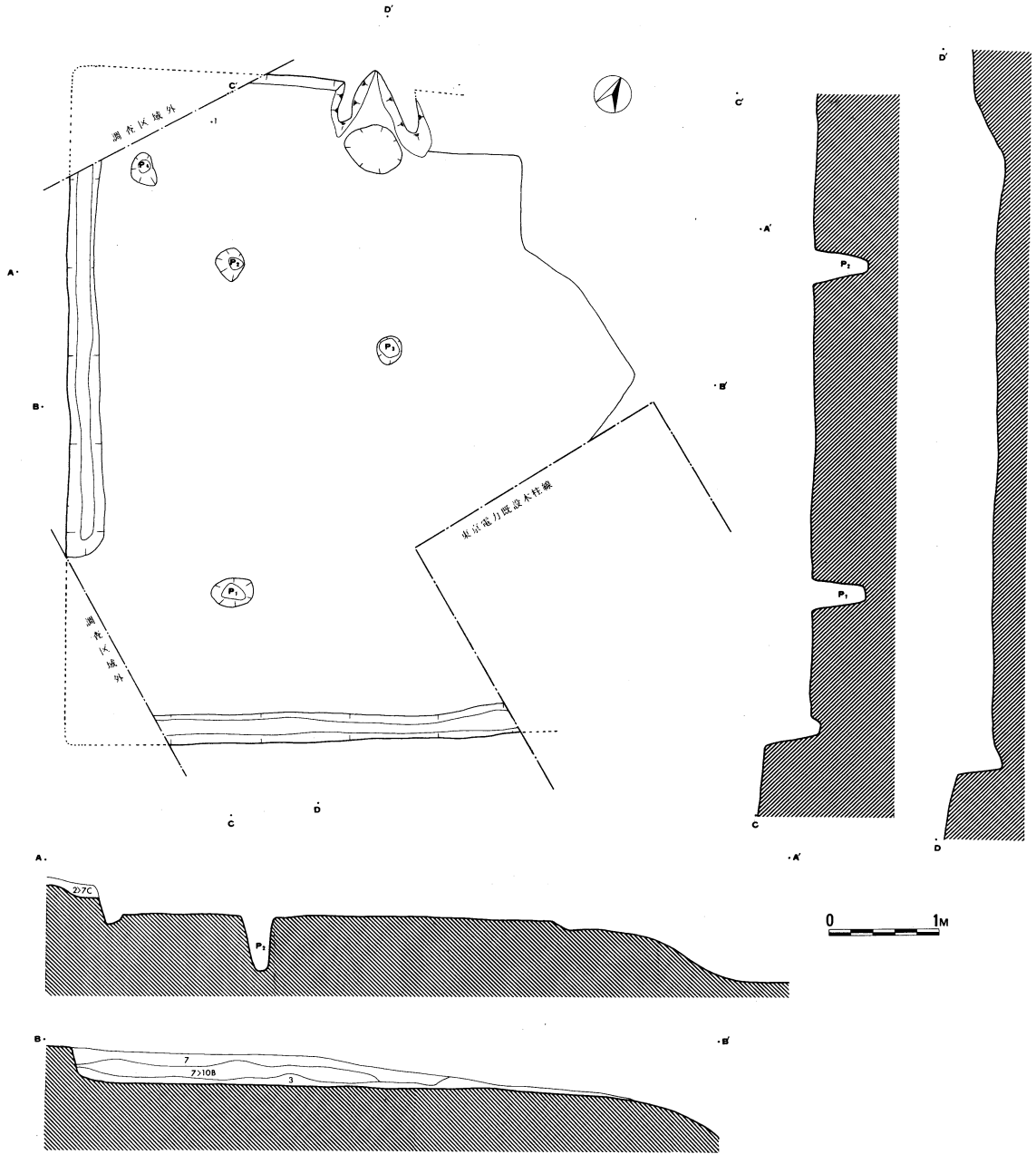
堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西不明、南北610cm、形態については不明である。堅穴の主軸方向はN-29°-Wを示し、堅穴の壁高は床面よりローム壁上まで西側が30cm、南側が40cmを測り、壁面の立ち上がりは外傾斜を帯びて掘られている。

堅穴内部の状態は、床面がほぼ平らで堅く、良く踏み込んだ痕跡を留めている。堅穴内部で検出された遺構は、ピット、壁溝、カマドである。

ピット

床面上で検出されたピットは、P₁～P₄の4本である。各ピットの規模は、P₁が径25cm×40cm・深さ50cm、P₂が径25cm×28cm・深さ50cm、P₃が径23cm×24cm・深さ14cm、P₄が径25cm×30cm・深さ48cmを測り、P₁・P₂

の2本が床面上で互いに等しい位置にあり、規模もほぼ等しい状態などから、このピットは住居址の主柱穴と思われる。P₃については性格不明で、P₄はP₂を補う補助柱穴と思われる。



第19図 戸神遺跡第1号住居址平面実測図

壁 溝

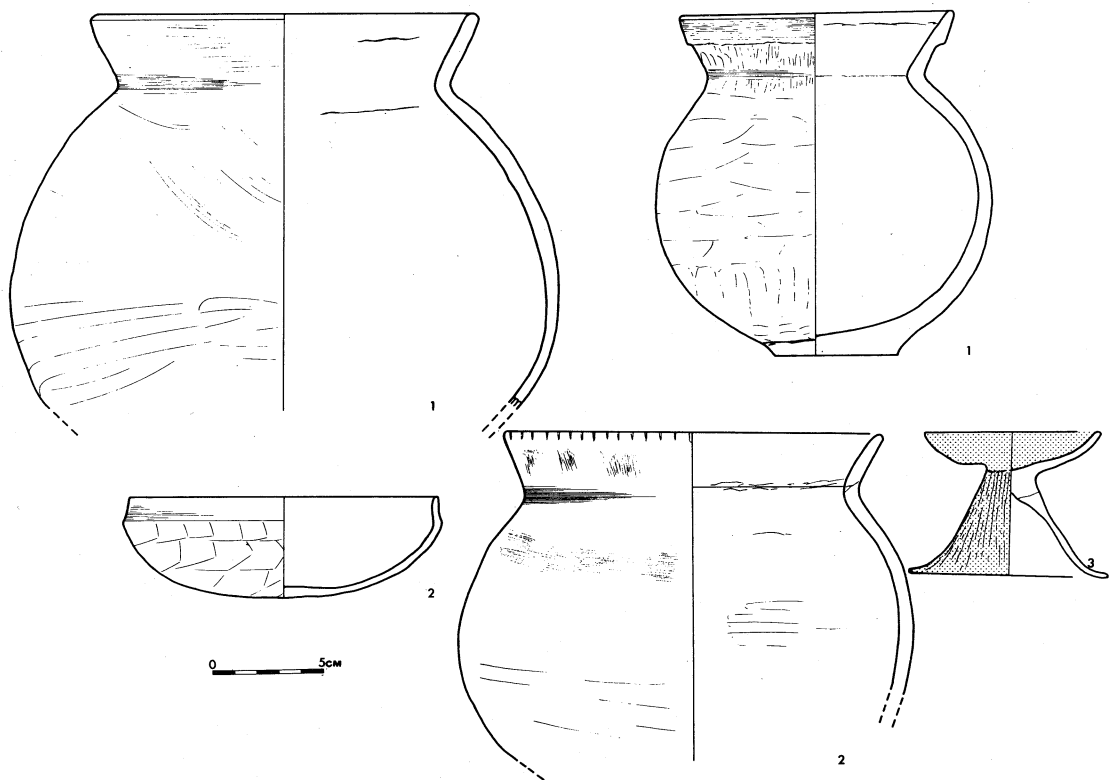
溝は攪乱の為、北東壁コーナー部分と東壁下が不明である。検出された溝は、南壁下と西壁下で認められ、規模は幅が20 cm～24 cm・深さ-8 cm～-9 cmほどで、断面がU字形を呈している。

カマド

北壁中央に付設されたカマドは、砂と粘土の流出崩壊が著しく、残存状態の極めて悪いものであった。カマドの構築は、ローム壁に密着して築き、構築材料には粘土と砂を使用して築いている。構造的には、焚口部・燃烧部・煙道部に分かれ、焚口部は床面より僅かに低く傾斜状を呈して燃烧部に至り、燃烧部はローム壁の内側にある。煙道部はローム壁を屋外に向って約12 cm張り出して煙出しに至っている。

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、北東コーナー部分の床面よりNo.1 土師器甕1点が出土し、覆土中からはNo.2 土師器坏1点が出土している。



第20図 戸神遺跡第1号・第3号住居址出土の土器実測図

戸神遺跡第2号住居址（挿図第21図、図版第六図の25）

本住居址は、地表下 -70 cm の位置で竪穴の掘り込みが確認され、1号住居址同様に木柱線により掘削時の攪乱が激しく住居址の東壁部は検出できなかった。

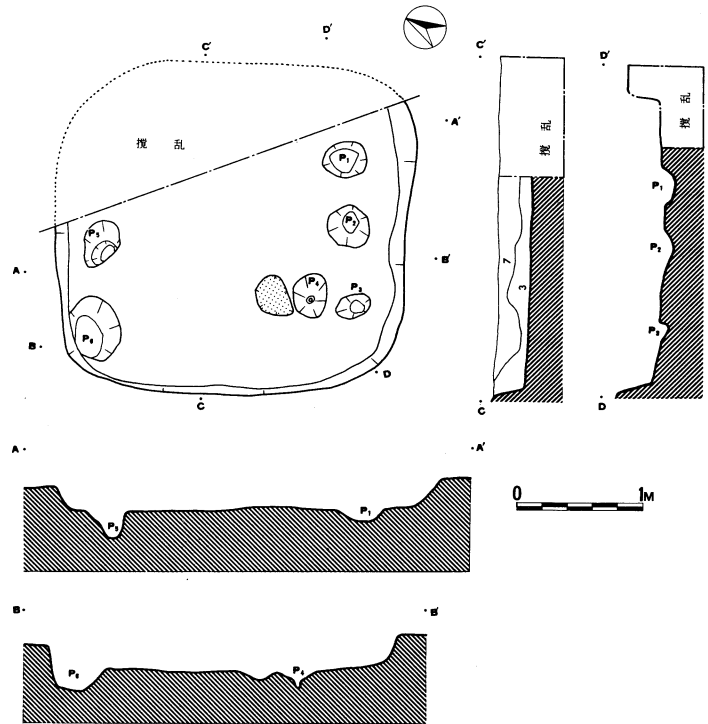
竪穴住居址に堆積した覆土の状態は、表土より床面にかけて黒色土（ローム粒を含む）、暗褐色土、床面に密着して黒色土、暗褐色土が堆積している。

竪穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西不明、南北 275 cm 、形態については、木柱線掘削時の攪乱により不明で、主軸方向は $N-36^{\circ}-W$ を示している。竪穴の壁高は、床面よりローム壁上まで西壁が 24 cm を測り、北壁が 24 cm 、南壁で 20 cm を測る。壁面の立ち上がりは、床面よりやや外傾斜を帯びて掘られている。

竪穴内部の状態は、床面がほぼ平らで堅く、比較的良く踏み込んだ痕跡を留めている。竪穴内部で検出された遺構は、ピット、貯蔵穴、炉址である。

ピット

床面上で検出されたピットは $P_1\sim P_5$ の計5本で、住居址東側部分については、攪乱が著しく不明である。ピットの規模は P_1 が径 $30\text{ cm}\times 36\text{ cm}$ ・深さ -10 cm 、 P_2 が径 $32\text{ cm}\times 34\text{ cm}$ ・深さ -10 cm 、 P_3 が径 $18\text{ cm}\times 28\text{ cm}$ ・深さ -8 cm 、 P_4 が径 $32\text{ cm}\times 28\text{ cm}$ ・深さ -14 cm 、 P_5 が径 $34\text{ cm}\times 24\text{ cm}$ ・深さ -26 cm を測る。これら5本のピットは本住居址に伴う柱穴であると思われる。



第21図 戸神遺跡第2号住居址平面実測図

貯蔵穴

竪穴の北側北西コーナーの位置で検出される。貯蔵穴は、径が50 cm×40 cm・深さ-20 cmを測り、平面形態が不整楕円形プランを呈し、貯蔵穴の底面は平らである。貯蔵穴内に堆積した覆土は、黒色土（ローム粒を含む）と暗褐色土（ローム粒を含む）から成り立っている。

炉 址

竪穴床面の中央よりやや南西寄りの位置から検出された炉址は、その規模が径30 cm×26 cm・深さが最深部で床面より-7 cmを測り、断面が浅い窪み状を呈している。炉址内の焼土の堆積は薄く、火床に加熱された状態が認められた。

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、土師器破片が数点出土しただけであった。

戸神遺跡第3号住居址（挿図第22図、図版第六図の26）

本住居址は、地表下-90 cmの位置で竪穴の掘り込みが確認されたが、攪乱が激しく住居址の残存状態は極めて不良であった。

竪穴住居址に堆積した覆土の状態は、著しい攪乱により堆積の全体的な把握は困難であったが、床面に密着して一層黒色土（ローム粒を含む）が認められた。

竪穴住居址の形態と規模については、攪乱を激しく受けており規模・形態共に不明である。

竪穴内部の状態は、攪乱を受けている為壁面の立ち上がりが南壁のみ検出され、幾分外傾斜を示して立ち上がり、壁高は床面より18 cmを測る。床面はソフトロームと黒色土面を床とし、平らで全体的に軟弱である。竪穴内部で検出された遺構は、ピットと貯蔵穴である。

ピット

床面上で検出されたピットは攪乱により住居消失面積が大きい為、P₁の1本である。ピットの規模は、P₁で径40 cm×40 cm・深さ-30 cmを測る。

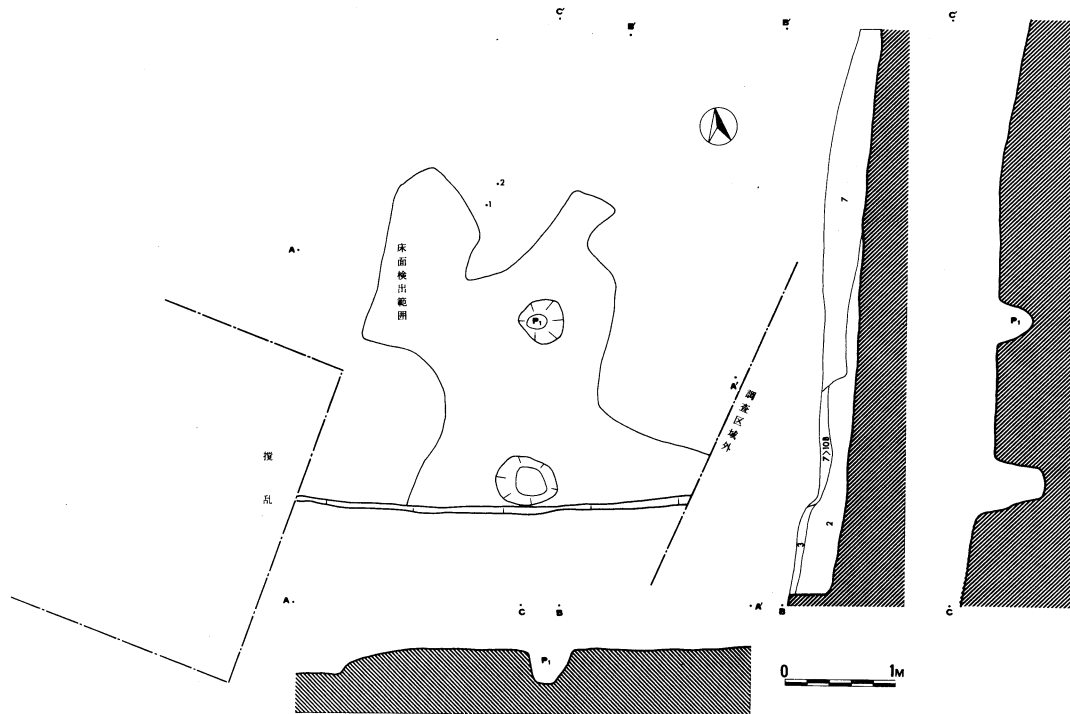
貯蔵穴

竪穴の南壁下に検出される。貯蔵穴の規模は、径が54 cm×44 cm・深さ-46 cmを測り、形態が楕円形プランを呈し、底面はほぼ平らである。貯蔵穴内部の堆積

状態は、底部より上面まで黒色土（ローム粒を含む）を中心に、左右に流入を示す暗褐色土（ローム粒を含む）が存在している。

出土遺物

床面検出範囲外より土師器（No. 1 埴、No. 2 甕）が出土し、覆土中より器台No. 3 が出土している。



第22図 戸神遺跡第3号住居址平面実測図

戸神遺跡出土遺物要覧

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No. 1	土師器 甕	口径 176	体下部より内湾して立ち上がり、口縁部でくの字状に外反する。	調整は外面口縁部刷毛目、体下部にヘラ削り痕を認める。	淡褐色	焼成不良
1号址 No. 2	土師器 坏	口径 140 底径 丸底 器高 46	底部は丸底で内湾しながら立ち上がり、口縁近くに陵を認める。	調整は外面口縁部撫で、体部にヘラ削りを認める。	褐色	焼成良好
3号址 No. 1	土師器 埴	口径 125 底径 60 器高 154 最大幅 152	底部は平底で内湾しながら立ち上がり、口縁部でくの字状に外反する。複合口縁。	調整は外面口縁部刷毛目、体部にヘラ削り、内面は表面剥離の為不明。		

住居址	器形	器形(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
3号址 No 2	土師器 甕	口径 172	体部より内湾して立ち上がり、口縁部でくの字状に外反する。	調整は口唇部刻目、外面体部刷毛目、内面は口縁部刷毛目痕を認める。	褐色	赤塗り・焼成良好
3号址 No 3	土師器 高坏	口径 79 底径 89 器高 65	坏部は内湾して立ち上がり、脚部は八の字状に開き、底部でラッパ状に開く。	調整は内外面共にヘラ削りと撫で痕を認める。	褐色	赤塗り・焼成良好

鎌苅遺跡第1号住居址（挿図第23図、図版第七図の28）

本住居址は、以前京成バス営業所が建っていた場所に所在し、敷地内には玉ジャリを敷詰め、コンクリートの池が存在した。発掘調査はこの障害物を撤去する事から始まり、住居址はソフトローム層上面で確認されたが、西壁部と南西コーナ一部は既に営業所建設時の掘削により消失していた。

堅穴住居址に堆積した覆土の状態は、攪乱が床面近くまで入り込み堆積状態を確認するのは困難であったが、比較的残りの良い東壁寄りの位置で確認すると、床面に密着してローム粒を多量に含む暗褐色土、その上にローム粒を含む褐色土が堆積している。

堅穴住居址の規模と形態については、平面プランが東西不明、南北は460cmを測り、堅穴の平面形態は攪乱箇所が著しい為に不明である。堅穴の壁高は、床面よりローム壁上まで25cm～40cmを測り、壁面の立ち上がりは外傾斜を帯びてローム壁上に至っている。

堅穴内部の状態は、床面がほぼ平らで堅いが、特に床面中央と炉址周辺が堅固である。堅穴内部で検出された遺構は、ピット・炉址である。

ピット

床面上で検出されたピットはP₁～P₇の計7本である。ピットの規模は、P₁が径26cm×28cm・深さ-23cm、P₂が径42cm×36cm・深さ-66cm、P₃が径不明深さ-48cm、P₄が径26cm×38cm・深さ-40cm、P₅が径28cm×28cm・深さ-27cm、P₆が径28cm×31cm・深さ-52cm、P₇が径38cm×30cm・深さ-27cmを測る。

炉 址

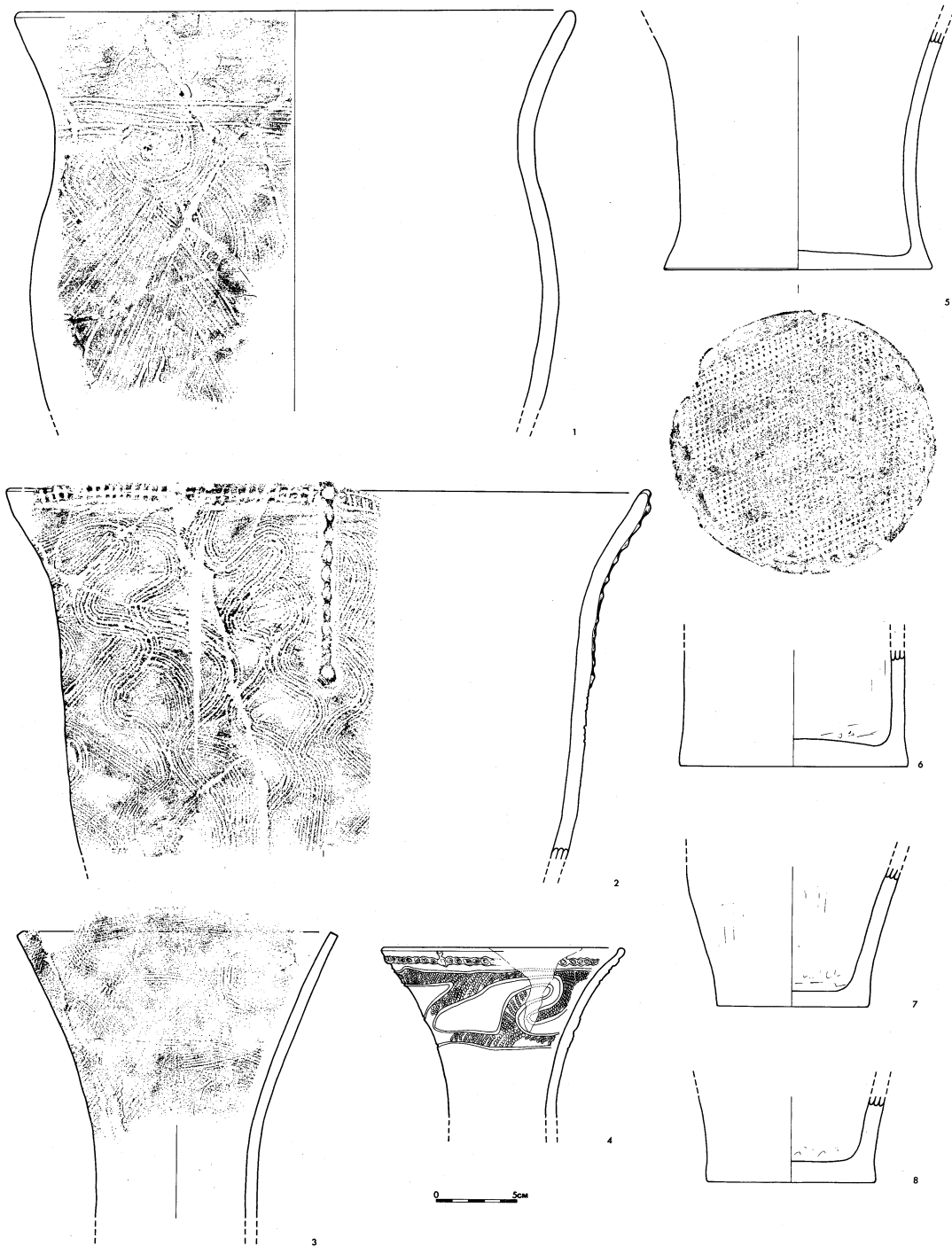
竪穴床面の中央部よりやや南壁寄りの位置で検出された炉址は、その規模が東西 52 cm × 南北 68 cm ・ 深さは最深部で -10 cm を測り、断面が窪み状を呈し、炉址周囲には幅 10 cm 位いの範囲で床面が盛り上がった状態で炉址を廻っている。炉址内の焼土の堆積は比較的薄く、火床には加熱された状態が認められた。

出土遺物

住居址内からの出土遺物は、床面上より甕 2 点 (No. 1 ・ No. 2) 深鉢 8 点 (No. 3 ~ No. 10) 浅鉢 3 点 (No. 11 ~ No. 13) 石皿 1 点 (No. 14) 覆土中より土師器碗 1 点 (No. 15) が出土している。



第23図 鎌苅遺跡第1号住居址平面実測図



第24図 鎌苅遺跡第1号住居址出土の土器実測図

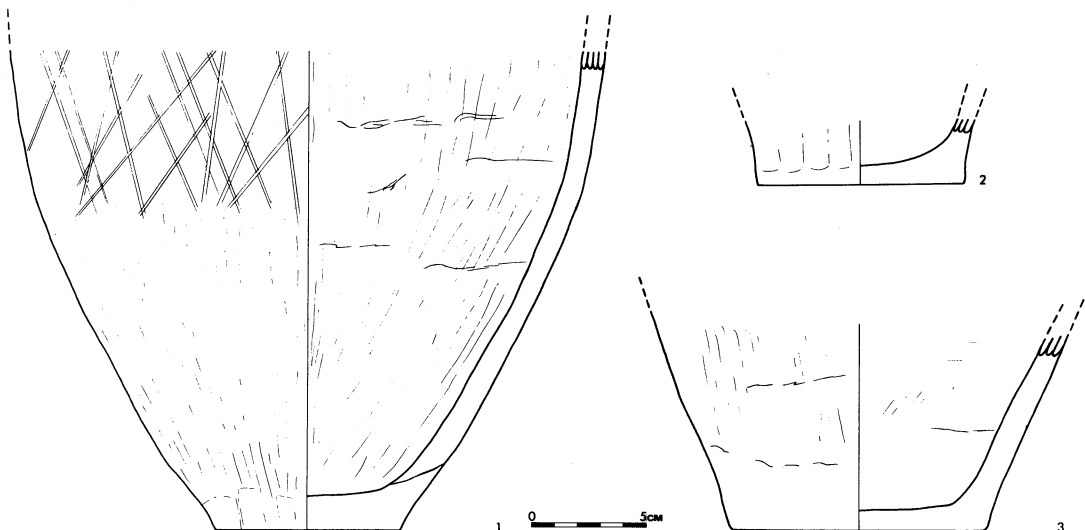


第25図 鎌苅遺跡第1号住居址出土の土器実測図

鎌 苧 遺 跡 出 土 遺 物 要 覧

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No 1	甕	口径 345	体下部より内湾しながら立ち上がり、口頸部より外反して口縁部に至る。	口頸部より体下部に掛けて、竹管状工具により横位と斜位に沈線を施文している。	暗褐色	焼成良好
1号址 No 2	甕	口径 400	体部は内湾しながら立ち上がり、口頸部で外反する。	口縁部に刻目、口縁突起より刻目の入った隆帯が垂下する。体部は櫛歯状工具によって曲線の文様を施文している。	暗褐色	焼成良好
1号址 No 3	深鉢 口縁部	口径 198	体部より外反して口縁部まで立ち上がる。	体上部より口縁部に掛けて、細い櫛歯状工具によって曲線の文様を施文している。	褐色	焼成良好
1号址 No 4	深鉢 口縁部	口径 150	体部より外反して口縁部まで立ち上がる。	口縁部には押圧を施した隆帯が一周する体上部にはLR縄文による帯縄文が施され、それを区切るようにして沈線による文様が施されている。	褐色	焼成良好
1号址 No 5	深鉢	底径 165	底部は平底で、体下部より一端内湾しながら外反して立ち上がる。	無文土器。底部は網代底である。	暗褐色	焼成良好
1号址 No 6	深鉢 底部	底径 140	底部は平底で、体下部より僅かに内湾しながら垂直に立ち上がる。	無文土器。底部の器肉は厚くなっている。	褐色	焼成良好
1号址 No 7	深鉢 底部	底径 94	底部は平底で、体下部より僅かに内湾ぎみに外反して立ち上がる。	体下部は無文。	褐色	焼成良好
1号址 No 8	深鉢 底部	底径 104	底部は平底で、体下部より僅かに内湾ぎみに外反して立ち上がる。	体下部は無文。	褐色	焼成良好
1号址 No 9	深鉢	底径 105	底部は平底で、体下部より外反しながら内湾ぎみに立ち上がる。	体部は斜位にLR縄文が施されている。	暗褐色	焼成良好

住居址	器形	器測(ミリ)	形態上の特徴	手法上の特徴	色調	備考
1号址 No. 10	深鉢	口径 243 底径 80 器高 210	底部は平底で、体下部より内湾しながら立ち上がる。	体部は斜位にLR縄文が施されている。体下部は無文。	褐色	焼成良好
1号址 No. 11	浅鉢	口径 254 底径 99 器高 145	底部は平底で、体下部より一端外反しながら内湾して立ち上がる。	外面体部斜位にLR縄文が施されている。	褐色	焼成良好
1号址 No. 12	浅鉢	口径 144 底径 90 器高 55	底部は平底で、体下部より僅かに内湾しながら立ち上がる。	外面体部に櫛歯状工具によって、横位に沈線による文様が施されている。	暗褐色	焼成良好
1号址 No. 13	浅鉢	底径 115	底部は平底で、体下部より内湾しながら立ち上がる。底部は器肉厚。	体下部は無文。	褐色	焼成良好
1号址 No. 14	石皿	最大長 397 最大幅 235 厚さ 10~80	平面が楕円形で、前後が高く、中央部に向い窪み状を呈して、中央部に穴を持つ。	片面を弧状に播りくぼめて、中央部に粉化したものを掃き出す穴を有する。		
1号址 覆土 No. 15	碗	口径 82 底径 13 器高 70	底部より内湾しながら、口縁部に立ち上がる。	調整は外面ヘラ削りと撫で、内面は撫で痕を認める。	褐色	焼成良好



第26図 島田台鶴作台遺跡表採土器実測図

島田台鶴作台遺跡表採土器（挿図第26図、図版第十四図の39）

本遺跡地からは遺構は検出されず、耕作土中よりNo.1～No.3の3点が出土し、いずれも縄文式土器鉢型の底部であった。No.1は底部平底で、体下部より内湾して立ち上がる。調整は体上部に櫛歯状工具により斜位に沈線文様が施され、体下部は無文でヘラ削りが施されている。No.2・No.3は底部は平底で、体下部より外反して立ち上がる。調整は外面にヘラ削り痕が認められ、無文土器である。

IV 結 語

本遺跡発掘調査は、東京電力鉄塔敷地（面積100m²～400m²）内の限定された地区内より認められた竪穴遺構を工事に先掛けて事前に発掘調査を実施し、これを正確に記録に留めて報告するかたちの部分発掘である。発掘調査で検出された遺構は、八千代市島田遺跡（竪穴住居址1基・溝状遺構1基）・神久保間見穴遺跡（竪穴住居址1基・溝状遺構1基）・佐山寺の下遺跡（竪穴住居址2基）・印西町戸神遺跡（竪穴住居址3基）・印旛村鎌苅遺跡（竪穴住居址1基）の以上5箇所の遺跡より竪穴住居址8基・溝状遺構2基が検出された。

各遺跡ごとに竪穴遺構の形態・規模・状態などについて特長を書き表わすと、

八千代市島田遺跡

本遺跡は、標高20m前後の印旛沼より注ぐ新川を東に望む台地上に位置し、遺跡地周辺は土師器の包含地になっており南西1kmの地点には桑納前畑遺跡が所在する。今回の発掘調査で島田遺跡の一部を調査することによって、平安時代の竪穴住居址1基と時期不明の溝状遺構1基を検出した。第1号住居址は、竪穴の平面が方形プランを呈し、カマドは北壁中央に付設されている。床面上からは5本のピットと溝が検出され、出土遺物は土師器坏4点（底部は丸底で外面にヘラ削り痕のあるものと、ロクロ成形で糸切り痕のあるもの）・覆土中より土師器坏2点・石製紡錘車1点・砥石1点が出土している。第2号溝状遺構は出土遺物も土師器が数点出土しただけで、規模・内容についての詳細は不明である。

八千代市神久保間見穴遺跡

本遺跡は、島田遺跡より新川を約1km程印旛沼に向ってのぼり、神崎川を北に望む標高20m前後の台地上に位置する。遺跡地周辺には、縄文土器（中期）・土師器片が散布しており周辺にも遺構の存在が窺える場所である。第1号住居址は、北壁カマド部分より西壁部が調査区域の外側に位置していた為に完掘はできなかった。カマドについては、北壁未発掘箇所より砂と焼土の存在が認められ北壁にカマドの付設が推察される。住居址内からの出土遺物は、床面上より土師器坏13点・高台付坏1点が出土し、ロクロ成形で底部に糸切り痕を有するものが認められた。出土土器中よりNo.1・No.12の土師器坏体部に墨書で『入』の一文字が書かれていた。周辺遺跡での墨書土器は、八千代市村上遺跡・佐倉市江原台遺跡・印旛村吉高家老地遺跡等比較的近接した場所で数多く検出されている。第2号溝状遺構は、山林部と畑地との地割として掘られたと考えられる。

八千代市佐山寺の下遺跡

本遺跡は、印旛沼より注ぐ新川を東に、神崎川を北に望む標高20m前後の舌状台地の先端部に位置する。遺構は第1号住居址（国分期）と第2号住居址（和泉期）が重複する形で検出され、少なくともこの遺跡周辺にはこの時期において生活が営まれた事は事実で、周辺にも神崎川と新川を望む同一台地の先端に縄文時代（中期）の佐山貝塚・古墳時代（前・中期）の佐山遺跡等が近接して所在し、本遺跡地周辺は縄文・土師器の散布地として今後の調査が期待される場所と考えられる。第1号住居址は、隅丸方形プランを呈し北壁中央にカマドが付設されている。床面からは1本のピットと土師器坏1点が出土し、カマド内より土師器2点（ロクロ成形・底部に糸切り痕）が出土している。第2号住居址は、不整隅丸方形プランを呈し床面中央部北西よりの位置に炉址が存在する。出土遺物は、床面上より土師器高坏4点土師器坏1点・土師器埴1点が出土している。

印西町戸神遺跡

本遺跡は、印旛沼より注ぐ神崎川を南に望む標高22m前後の舌状台地先端部に位置し、遺跡地周辺には縄文時代中期・古墳時代前期の土器片が散布している。発

掘によって検出された竪穴住居址は、3基全部が東京電力既設木柱線掘削時の攪乱により一部消失している為に平面プランは不明である。住居址内からの出土遺物は、第1号住居址で土師器甕1点・覆土中より土師器坏1点が出土し、第2号住居址は出土遺物なし、第3号住居址は覆土中より器台1点・土師器埴1点・甕1点が出土している。

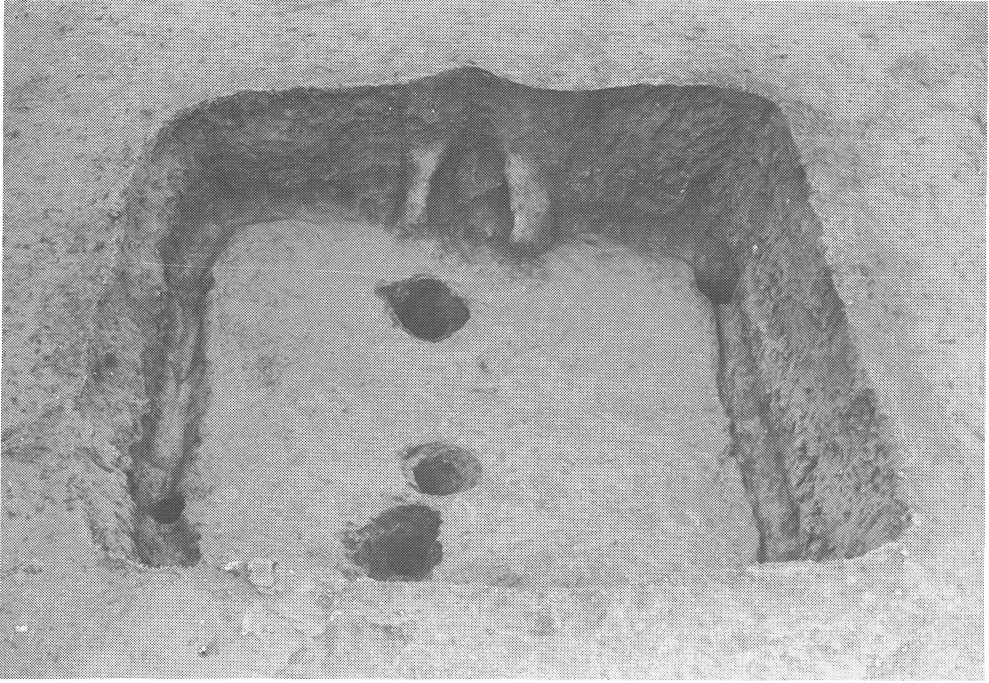
印旛村鎌苅遺跡

本遺跡は、印旛村鎌苅字田に所存し、印旛沼を南に望む標高30m前後の台地東端部に位置する。検出された遺構は、縄文時代後期の竪穴住居址1基で平面プランは攪乱による消失面積が多い為に不明である。出土遺物は、甕・浅鉢・深鉢・石皿等が出土している。甕型土器は外面体部に沈線で曲線的に構図が施されており、堀之内I式の文様を呈している。石皿は平面が楕円形で、側辺は丸く中央部に向い播り鉢状を呈して中央に粉化したものを掃き出す穴を有している。

以上八千代市・印西町・印旛村の3市町村に亘り発見された遺跡について、簡単にまとめてみましたが、今回の遺跡発掘調査を省みて遺跡地内であってもその1点を示す面積程度の発掘調査であり、なにも結論として得られた成果はなかったが、それでも各遺跡地で営まれている古代集落の可能性がより強く証明されたことであり、しいては印旛沼・新川・神崎川・に近接した当地域における遺跡の状況が断片的ではあるが、捉えることになり本発掘調査の大きな成果であったと言えます。

稿を終わるにあたって最後に、発掘調査に協力してくださいました地元多くの方々ならびに調査関係者に対して厚く感謝の意を申し上げる次第でございます。

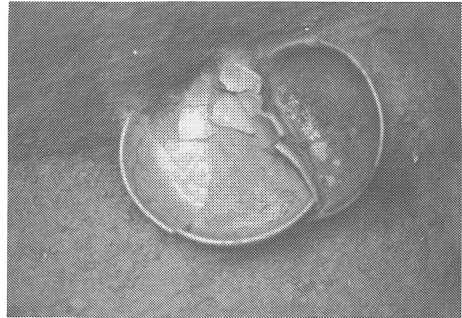
版 圖



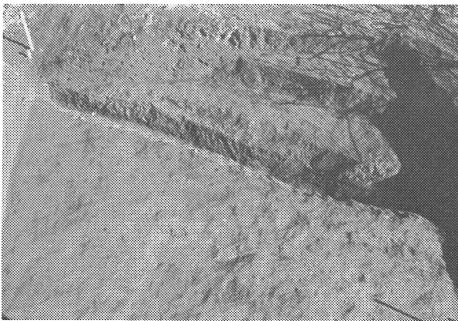
1 島田遺跡第1号住居址



2 カマド



3 No.1・2土師器坏



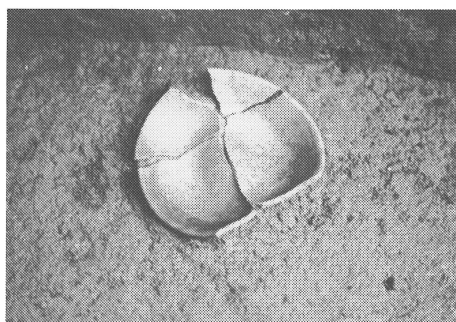
4 第2号溝状遺構



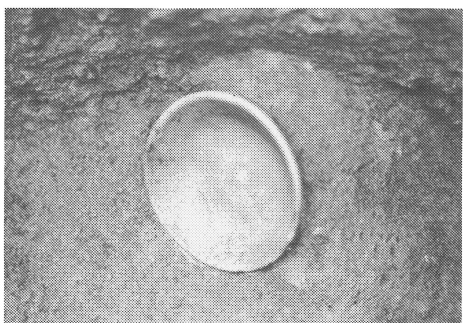
5 神久保間見穴遺跡第1号住居址



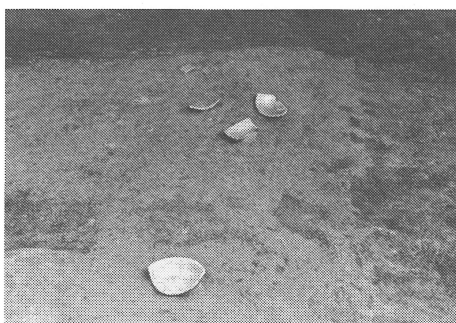
6 No. 1・2土師器坏



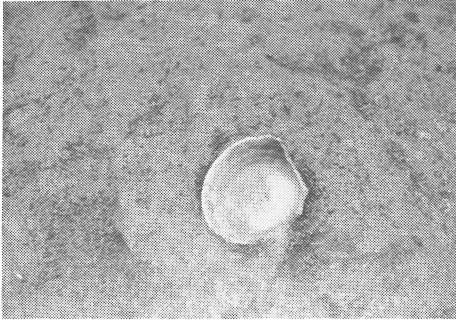
8 No. 4土師器坏



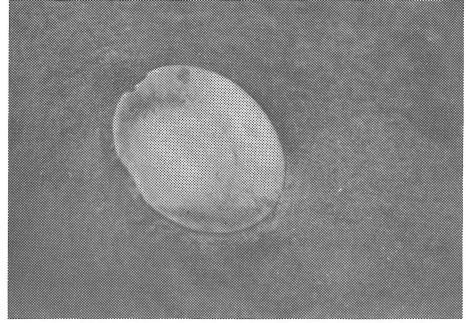
7 No. 3土師器坏



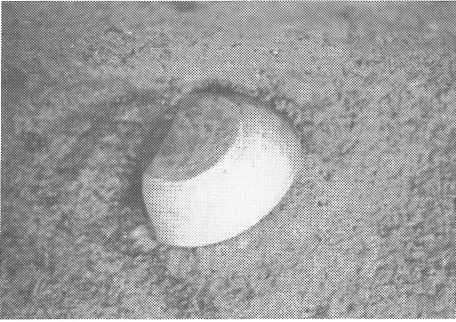
9 No. 5・7土師器坏



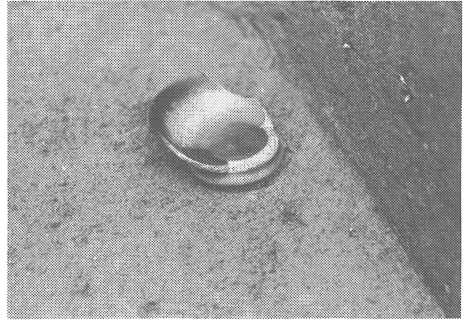
10 No. 8 土師器杯



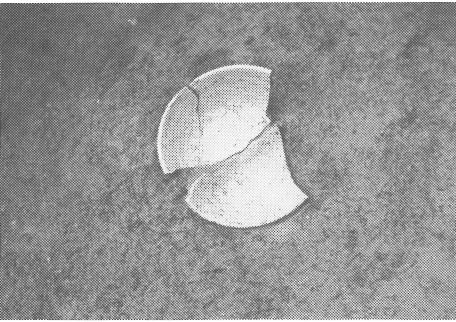
14 No. 13 土師器杯



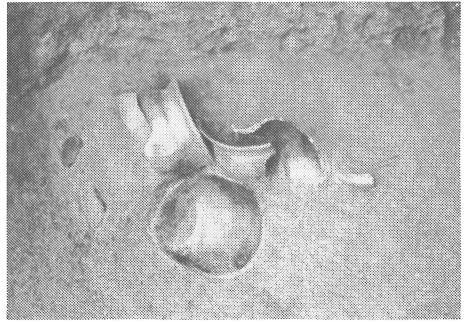
11 No. 9 土師器杯



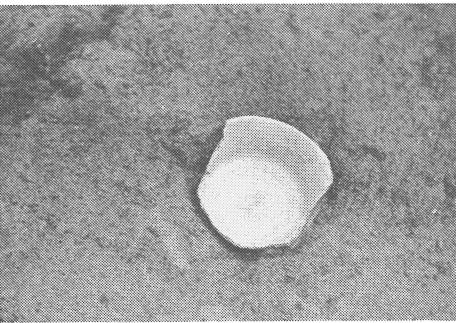
15 No. 14 土師器杯



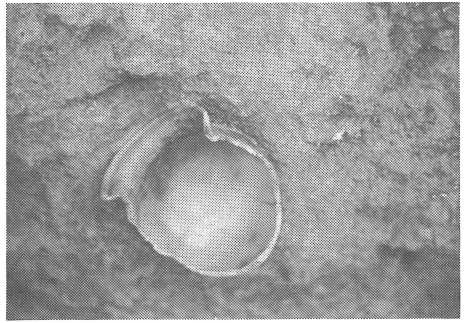
12 No. 10 土師器杯



16 No. 15 土師器甕



13 No. 11 土師器杯



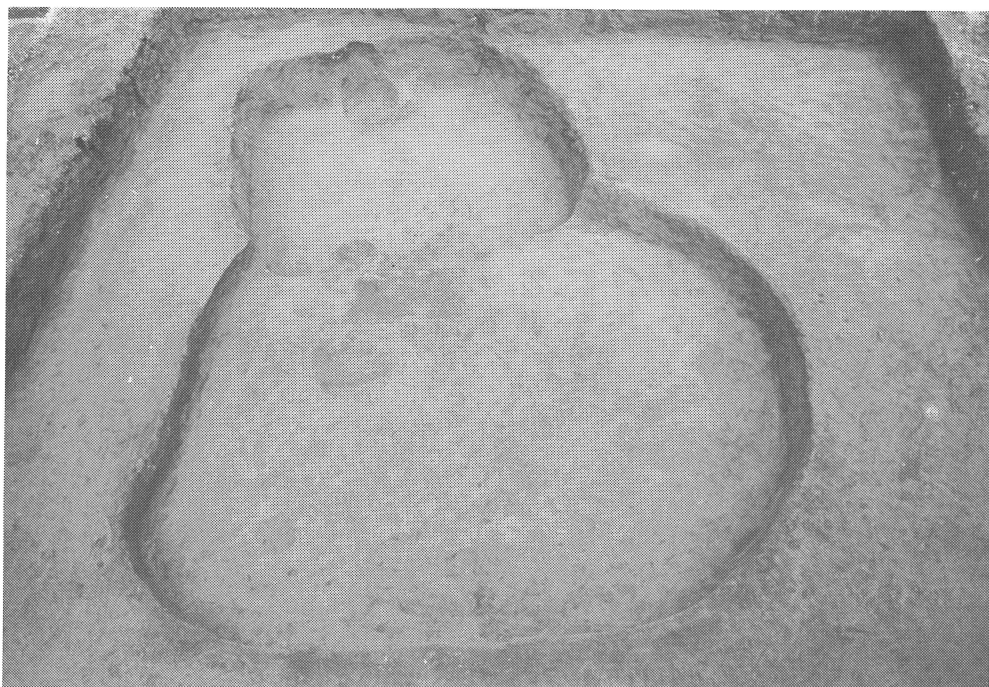
17 No. 16 土師器甕



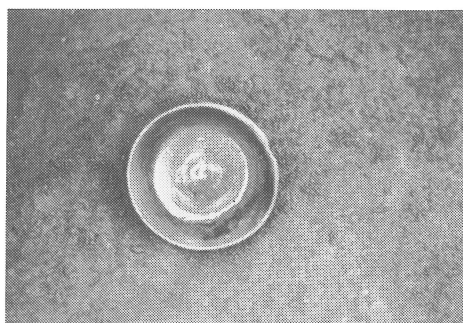
18 神久保間見穴遺跡第2号溝状遺構



19 佐山寺の下遺跡第1号住居址



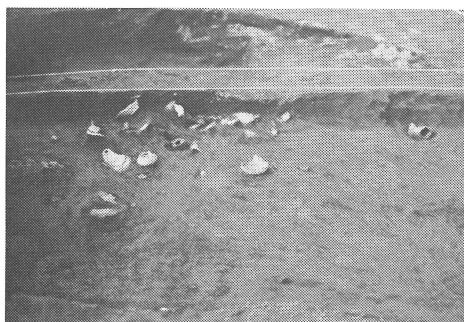
20 佐山寺の下遺跡第一号・第二号住居址



21 第1号住居址No.1 土師器坏



22 第1号住居址No.2・3 土師器坏

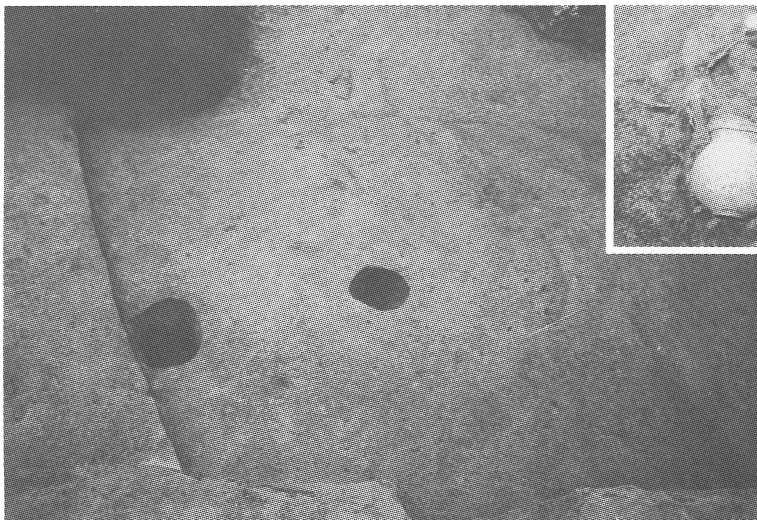


23 第2号住居址出土土器一括



24
戸神遺跡
第1号住居址

25
戸神遺跡
第2号住居址



26
戸神遺跡
第3号住居址



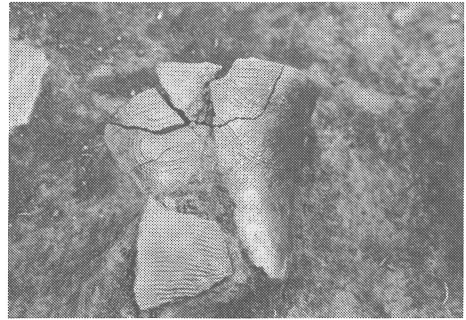
27 第3号住居址
No.1 土師器罎
No.2 土師器甕



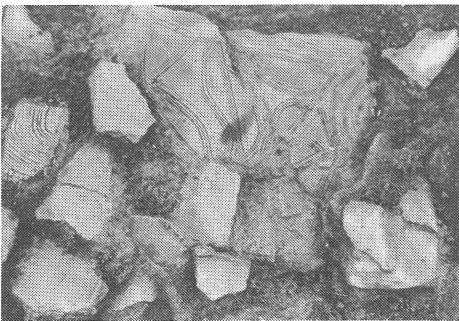
28 鎌苅遺跡第1号住居址



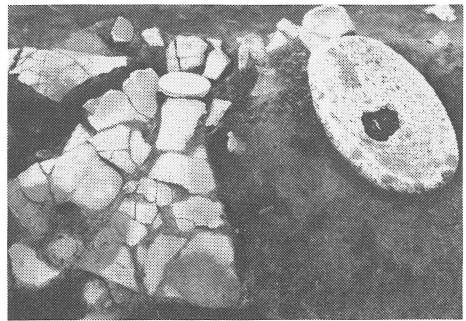
29 出土遺物一括



31 No. 3 鉢



30 No. 2 甕



32 No. 9 鉢・No. 1 4 石皿



島田遺跡第1号住居址No.1



神久保間見穴遺跡第1号住居址No.1



第1号住居址No.2



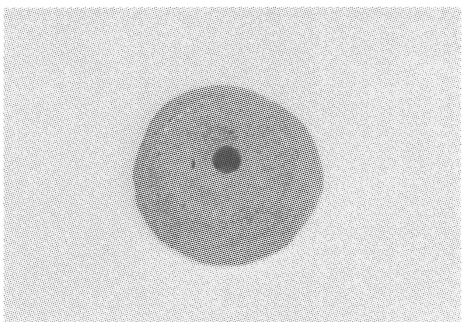
第1号住居址No.2



第1号住居址No.4



第1号住居址No.3

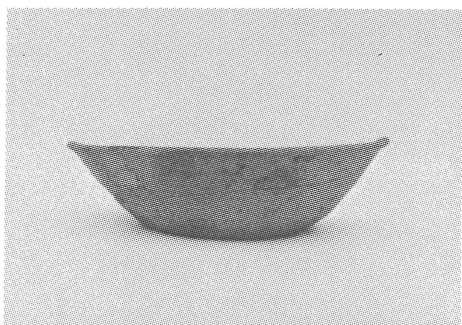


第1号住居址No.7



第1号住居址No.4

33 島田遺跡第1号住居址・神久保間見穴遺跡第1号住居址出土遺物



神久保間見穴遺跡第1号住居址No.7



第1号住居址No.11



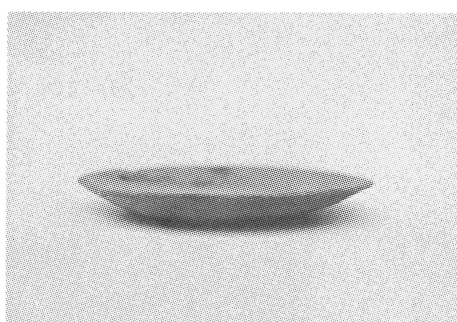
第1号住居址No.8



第1号住居址No.12



第1号住居址No.9



第1号住居址No.13



第1号住居址No.10



第1号住居址No.14



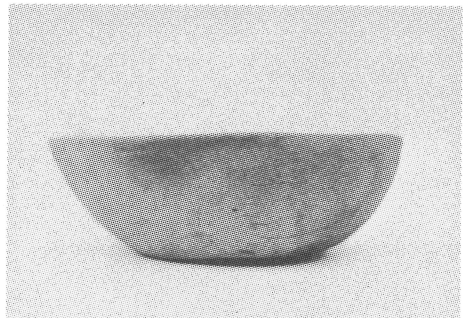
神久保間見穴遺跡第1号住居址No.15



第1号住居址No.2



第1号住居址No.16



第1号住居址No.3



第1号住居址No.17



第2号住居址No.1

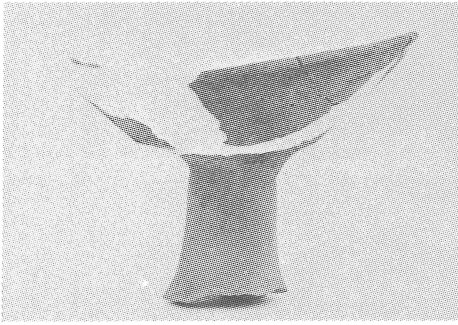


佐山寺の下遺跡第1号住居址No.1

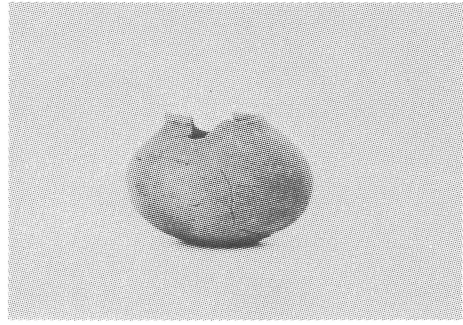


第2号住居址No.2

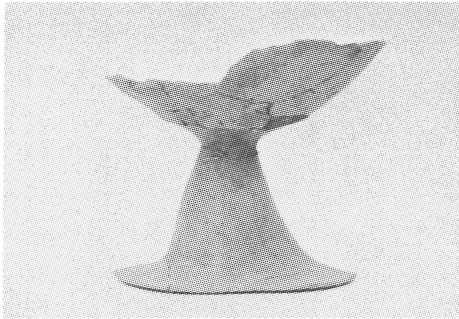
35 神久保間見穴遺跡第1号住居址・佐山寺の下遺跡第1号住居址・第2号住居址出土遺物



佐山寺の下遺跡第2号住居址No.3



第2号住居址No.7



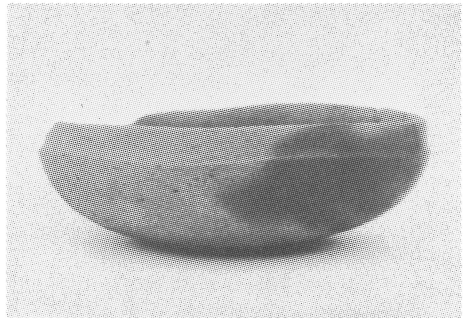
第2号住居址No.4



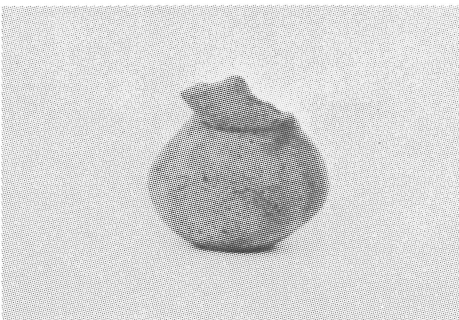
戸神遺跡第1号住居址No.1



第2号住居址No.5



第1号住居址No.2



第2号住居址No.6

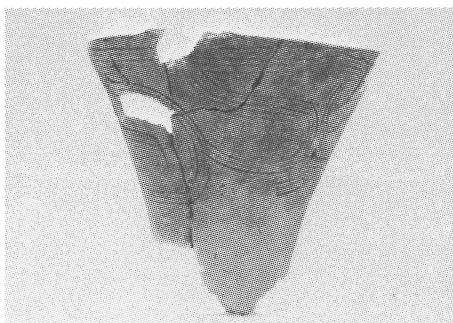


第3号住居址No.1

36 佐山寺の下遺跡第1号住居址・第2号住居址・戸神遺跡第1号住居址・第3号住居址出土遺物



戸神遺跡第3号住居址No.2



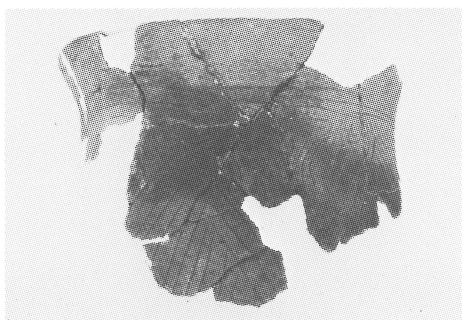
第1号住居址No.3



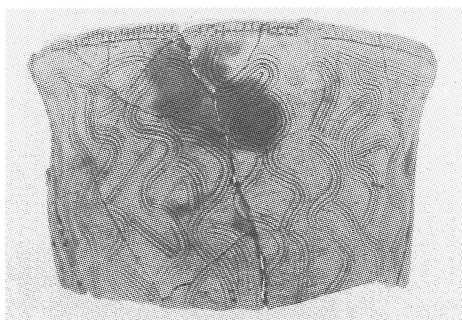
第3号住居址No.3



第1号住居址No.4



鎌苅遺跡第1号住居址No.1

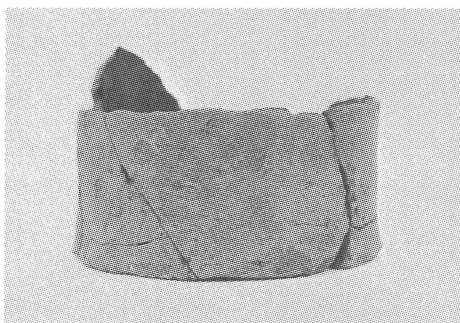


第1号住居址No.2

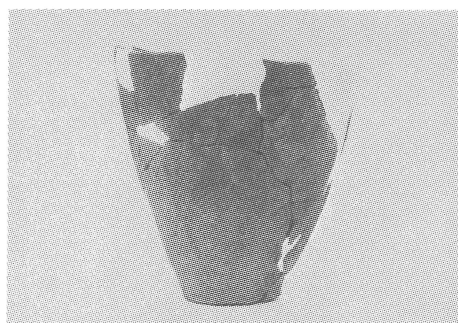


第1号住居址No.5

37 戸神遺跡第3号住居址・鎌苅遺跡第1号住居址出土遺物



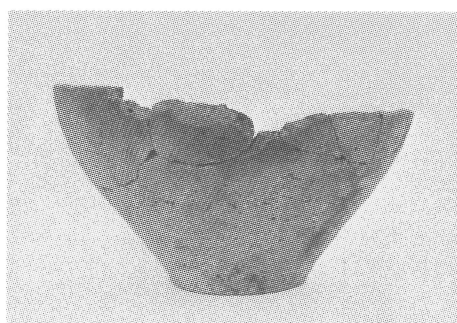
鎌苧遺跡第1号住居址No. 6



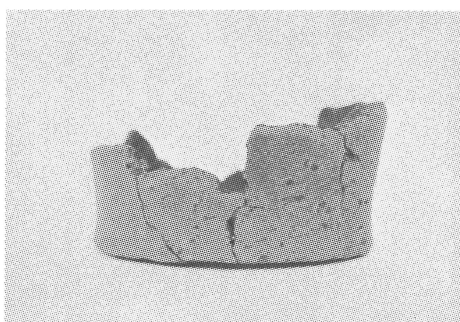
第1号住居址No. 10



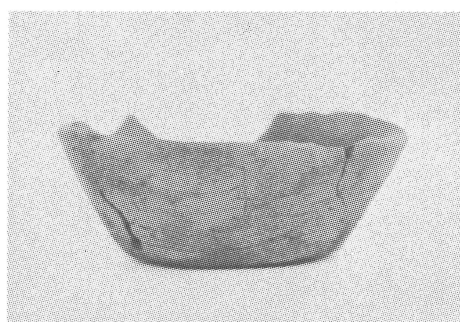
第1号住居址No. 7



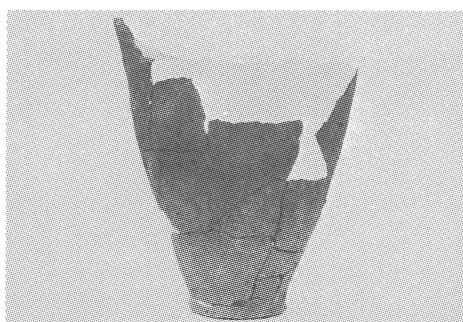
第1号住居址No. 11



第1号住居址No. 8



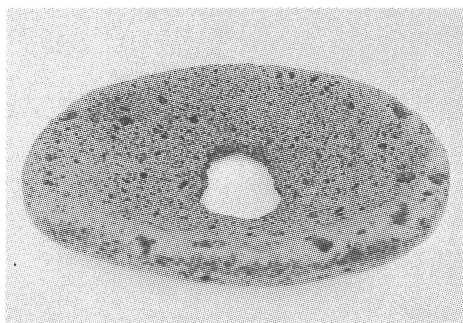
第1号住居址No. 12



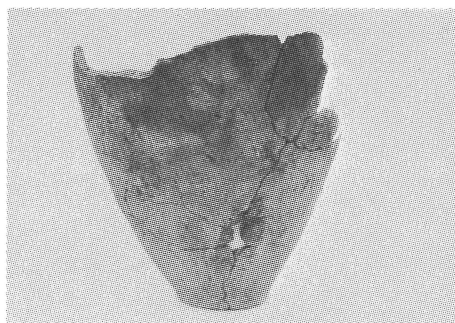
第1号住居址No. 9



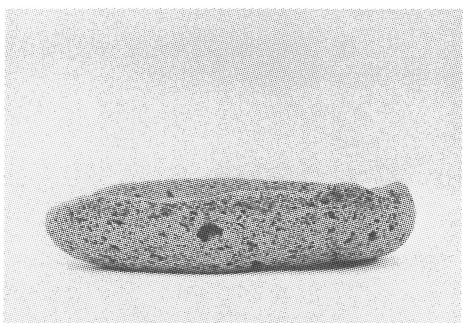
第1号住居址No. 13



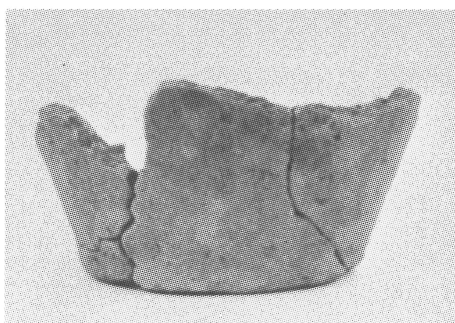
|



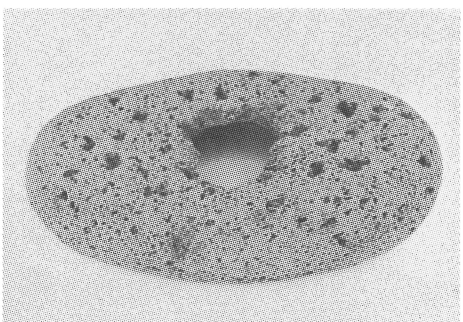
島田台鶴作台遺跡表採No. 1



|



表採 No. 2



鎌苜遺跡第 1 号住居址No. 1 4



第 1 号住居址No. 1 5

39 鎌苜遺跡第 1 号住居址・島田台鶴作台遺跡表採土器

東京電力送電鉄塔建設事業
に伴う発掘調査報告書

発刊 昭和55年5月1日
著者 渋谷 貢
出版 八千代市遺跡調査会
船橋市遺跡調査会
非売品
印刷 有限会社 伸 騰 社
